

(別紙1) 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		大 城 賢		所 属	教育学部学校教育教員養成課程英語教育専修	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.20	大学院:大学院1年次学生の指導教員として見通しをもった論文指導を行う。英語科教育特論(1年次)においては学生の興味関心に沿いながら講義を展開する。学部:1人の学生(実践学専修)の卒業論文指導を行う。英語科教育法A、B及び外国語活動のクラスにおいては学生中心の講義を展開し、年度末には授業記録をまとめ、次年度の講義に活かす。		0.20	大学院1年次の学生(現職教師)は2年次には現場(向陽高等学校)へ戻る予定になっている。そこで、1年次の履修を計画を慎重に行い、2年次の研究計画などをほぼ作成することができた。卒業論文の学生(教育実践学)は、「小学校外国語活動で担任教師が必要とする英語力の研究～発話の分析を通して～」のタイトルで論文を書き上げた。外国語活動の教科化が既定路線となっている中、示唆に富む論文となっている。英語科教育法及び外国語活動のクラスにおいては毎回授業リフレクションを学生に行わせ次の授業へ活かすことができた。個人のHPIにおいて公立学校の外国語活動や英語の授業の様子などを発信し学生の指導に役立てた。		
研究	0.20	「韓国における英語教育の総合的研究」と「児童英検及び英語能力テストを用いた英語力と情意面の関連に関する研究」の二つのテーマで公益財団法人日本英語検定協会から受託研究費を頂いている。この二つのテーマを中心に本年度は研究を行う。		0.20	「韓国における英語教育の総合的研究」においては実施した英語能力判定テストやアンケートの結果の分析を行った。「児童英検及び英語能力判定テストを用いた英語力と情意面の関連に関する研究」においては県内の2つの中学校において英語能力判定テストとアンケートを実施した。その結果の一部を活用して教育学部紀要に「中学校における英語教育の実態調査(Ⅰ)」として論文をまとめた。		
社会貢献	0.20	小学校の外国語活動及び中学校、高等学校の英語指導法に関するセミナーや講演などを通じて地域への貢献を行う。		0.20	文部科学省「研究開発学校企画評価会議」委員。文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」企画評価会議委員(主査)。浦添市英語教育推進委員会委員。宜野湾市教育委員会評価委員。那覇西高等学校学校評議委員。学外での主な講演及び指導助言:福岡県大野南小学校、浦添市立前田小学校、島根県南雲市英語教員研修会、宜野湾市立普天間小学校、浦添市立浦添中学校、石川県教育センター、愛媛県松山市英語研究会、岡山県総合教育センター、福岡県南地筑後英語教育研究会、大牟田市教育委員会、熊本市教育委員会、長崎県佐世保市教育センター、鳥取県教育センター、鳥取県鳥取市立湖南学園、福岡県教育センター、宮崎県えびの市教育委員会、南城市英語研究会、宮崎県中学校英語研究大会、長崎県佐世保市立金比羅小学校、他。		
管理運営	0.30	教育学部附属教育実践総合センター長として、センターの管理運営にあたる。また、教育実習委員会委員長として教育実習全般を統括する。		0.30	教育学部附属教育実践総合センター長としてセンターの管理運営にあたった。地域連携部門は学力向上先進地域育成事業(2年目)及びCOC事業(1年目)が加わった。教育フォーラム、年度末報告会を開催することができた。報告会は「交流」をキーワードにして、各部門間の事業の交流を試みた。教育実習中に学生が死亡するという事故があった。学部長の的確かつタイムリーな対応に助けられた。死亡した学生には後日「教員採用試験合格通知」が届いた。残念でならない。		
進路指導	0.10	卒論指導の学生、1年次の学生(年次指導教員として)を中心に適切な進路指導を行う。		0.10	卒論指導の学生(教育実践学専修)には論文指導とともに、教員採用試験むけて集中して学習ができるような配慮を行った。当該学生は教員採用試験にも合格し次年度の採用が決まった。1年次の学生には、数回懇談会を開くなどして大学生生活へのガイダンスを行った。		
その他	0.00			0.00	日本児童英語教育学会副会長。小学校英語教育学会常任理事。全国小学校英語活動実践研究会顧問。		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平良 勝明	所 属		教育学部 学校教員養成課程	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	英国や米国の最新記事や文学作品をホームページを介して教材として使用し、学生の英語圏への文化的理解を深めるとともに言語学習意欲も最大限刺激する教育を目指す。			0.35	最新のニュースや記事を逐次配信しているインターネットのサイトやその他のメディアコンテンツを利用して学生の英語圏への文化的理解を深める努力に努めた結果、学生の学習意欲や興味を向上させることに成功した。		
研究	0.35	Virginia Woolfの作品における断片的かつ融合的な意識世界の展開に関する論文を執筆する。			0.35	Virginia Woolfの前衛的で流動的な意識世界を研究・分析してそれを二編の論文に纏めて紀要等で発表することができた。		
社会貢献	0.20	ホームページ(http://www.cc.u-ryukyu.ac.jp/~iluvelyn/)を利用して英語の世界(言語ならびに文化)に親しみ、そして浸れるインターフェイスの構築ならびに充実を図る。			0.20	ホームページ、そしてマルチメディアコンテンツを利用した英語の世界そしてその文化に親しむことが可能なインターフェイスの整備・充実に取り組むことができた。		
管理運営	0.05	法文学部外国語系列教員と教育学部英語教育専修教員とで構成する教育委員会委員として外国語、並びに共通教育の発展と充実に寄与するとともに学部教育委員としてカリキュラムの円滑な遂行を目指す。			0.05	教育委員会委員として外国語、並びに共通教育の発展と充実に寄与するとともに、学科教育委員として学科の円滑なカリキュラム運営のために最善を尽くした結果、大学や学部に貢献することができた。		
進路指導	0.05	四年次指導教員として学生の教育並びに生活・進路指導に貢献する			0.05	四年次指導教員として大学生活や学業に関する援助をメールやインターネット等を利用して積極的に行い学生の教育・生活指導並びに学生生活全般の充実に貢献した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		小林 正臣		所 属		教育学部 学校教員養成課程		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	①教育学部指定および英語教育指定の授業における英語力向上に努める。 ②上記以外の授業における知的向上に努める。				0.30	①「大学英語」(教育学部指定クラス)などの共通科目では、英語に対する苦手意識を少しでも軽減するために副教材を開発して導入した。今後も継続して英語力向上に努めたい。 ②「基礎演習」「アメリカ文学研究I」「アメリカ文学演習II」などの必修および専門科目においては、各教材に独自に作成した副教材を合わせて使用することで、自身の教育能力の開発・向上に努めた。受講者たちの更なる満足を得られるように継続したい。				
研究	0.30	①前回の科研費による研究成果を拡充するために学会誌に継続的に投稿する。 ②新たな学会に入会することで、研究の更なる充実化を図る。				0.30	①予定した概ねの計画を実施することが出来た。その成果は、学会誌における審査論文の掲載などに結実された。 ②学外の研究者からの知見を得ることにより、充実した研究活動を行えた。これにより、今後の新たな研究の方向性も見出すことが出来た。				
社会貢献	0.05	①学外からの依頼で幼稚園免許取得希望者への英語教育を定期的に行う。				0.05	①学内では教えることが稀有である幼稚園免許希望者に向けた英語教育は、新たな経験を積み、教育観を深めることが出来た。今後も継続して行いたい。				
管理運営	0.30	①主任としての業務全般を遂行する。 ②外国語系委員会の業務全般を遂行する。				0.30	①一般的に問題なく遂行することが出来た。特に教員公募に伴う様々な業務を、学科内外との連携を行いながら無事に終えることが出来た。 ②他学部とカリキュラムの相互乗り入れを行っていることから、カリキュラムの再検討など多岐に渡る業務が生じたが、円滑に行っている。				
進路指導	0.05	①2年次指導教員として、履修指導および実習関連の指導を適切に行				0.05	①教職体験IIや介護等体験などの手続および指導を行い、その他(履修指導や生活指導等)も慎重かつ適切に行えた。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		森 まゆみ(上原 由記音)		所 属		教育学部 学校教員養成課程		職 名		教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.20	昨年度作成した「履修カード」を活用し、ピアノ実技での基礎力向上の取り組みを学生に浸透させる。基礎となるエチュード、ポリフォニー音楽の履修曲数を増やす。				0.20	『履修カード』の活用により、基礎学習に対する姿勢が変わり、向上心が高まった。音楽棟ピアノ練習室使用率がアップし、全体的な基礎力が少しずつ上がった。引き続き、基礎の大切さを説き、学習を習慣づけるように指導する。				
研究	0.30	スペイン人作曲家アントニオ・ルイス＝ピポおよび、フェデリコ・モンポウの研究を行う。教育面に重なるが、大学院生の指導を行うため、自ら学会に出席し情報収集を行う。				0.20	4月に東京表参道にて、スペインピアノ作品レクチャーコンサート「フェデリコ・モンポウの魅力第1回」9月に「同第2回」を行い、彼の生涯、作品「内なる印象」「魔法の歌」「子供の情景」「歌と踊り」をそれぞれ全曲紹介した。日本音楽学会、日本音楽表現学会、教大協全国大会、教大協九州沖縄地区大会のすべてに参加し、意見交換及び情報収集を行った。				
社会貢献	0.20	クラシック音楽の一般社会への振興のためにレクチャーコンサートを行う。スペイン作品の認知と関心を高める為、メールマガジンでの曲目説明配信および、一般公募出演者を募り、スペイン作品によるコンサートの開催、情報交換を行う。				0.10	一般市民のためにおしゃべりを交え、判りやすい解説で9月にグラナドス作品によるコンサートを開いた。メールマガジンは5回配信し、グラナドスの作品について解説した。一般公募によるコンサートの企画運営をし、演奏会は6月に東京で行い、出演者間の情報交換会も行った。				
管理運営	0.20	音楽科主任を務める。				0.40	音楽科主任として、毎週一回の学科会議を行い、事務処理のほか多くの改善を行った。特筆すべきはオープンキャンパスでのプログラムが今まで学生主体で作られていたが、主任の立場でプログラミングの主日を決め、受験生への視線に立った大学情報を多く盛り、学生の生演奏やイベントの写真やDVDによるプレゼンテーションを行い、アンケートで好評を得た。代議委員会にも出席し、本年は「教育学部自己評価書」を作成し、「学生の受入」の項目について担当した。学生主体だった「音楽科発表会」に本年度より教員も関わるようにし、発表会自体を研究学習の発表の場としてふさわしい内容にするために、何回も学生たちと話し合いの機会を作り、学生教員相互の意見の結実となる参加要項の改正を行った。				
進路指導	0.10	3年次、4年次について、全国の教員採用の情報を与え、指導に当たる				0.10	それぞれの学生に、卒業後の進路について相談に乗った。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	服部 洋一		所 属	教育学部 学校教員養成課程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	<p>①コメント・カードや受講ノート等によって学生からの積極的な意見聴取に努める。学生より得られた感想・意見を考慮し授業の改善(設備の充実も含めて)に努める。②オフィス・アワーに関しては学生からの要望がある時にその都度こまめに設定し、学習相談に大いに役立てることとする。③自己の専門分野における研究もしくは学際的分野における経験によって得られた事柄を実際の授業においても積極的に取り入れる。④大学院生を積極的にTAとして用い、もしくは外部専門家を非常勤としてTTとして登用し、意見交換・協働作業・助言をとおしてたがいの教育能力の資質向上に努める。⑤FD授業開催や修学旅行生への授業提供、FD授業への参加などを年度内最低1回の達成。⑥バイリンガル授業(前期2コマ、後期1コマ)を継続し、実技面で困難に感じていることはないかを常にチェックし、彼らの練習楽器と練習場所を好意的に確保する。⑦自己の所属する専修の学生への教育指導ばかりでなく、心理臨床科学コースの協力教員として学生の教育、フィールド実習指導、論文指導に協力する。</p>		0.30	<p>①コメントカードの記載された学生からの意見を考慮し、また要望に出来る限り相加たちで教材の準備を行い授業展開を行う努力をした。②オフィスアワーとして学生との時間を調整し、学生からの学業や卒業後の進路等についての質問に出来る限り時間を先懇切丁寧に対応した。③専門的研究によって得られたものを積極的に授業内容に取り入れた。特にコンサート等の本番とその準備期間に得られたものは、実際の授業展開に大変役に立った。④本年度は大学院のゼミ性が休学を延長した為に、院生によるTAはなかった。一方昨年度に引き続き、外部講師(ボランティア2名を含む計3名)を招き、学部共通科目「子ども文化とコミュニケーション」の授業をオムニバス展開し、バーバル&ノンバーバル・コミュニケーションを巡って様々な刺激を受講学生に与えることが出来たばかりでなく、私個人に追いても大変勉強になった。⑤他の実技教員の行う試演会を3回見学し、自らのFDに役立てた。また自らの主宰する試演会に他の実技教員も来席してもらい(1回)、学生の声楽実技に関する参考意見を多く得ることが出来た。⑥バイリンガル授業(前期2コマ、後期1コマ)をおこなった。実技面で困難に感じていることはないかを常にチェックを怠らず、彼らの練習楽器と練習場所を好意的に確保することに務めた。⑦心理臨床科学コース定例会議に出席し、協力教員として学生の教育、フィールド実習指導、論文指導に協力する。</p>	
研究	0.50	<p>①年度内最低1回の学会誌もしくは高等教育機関の紀要等への投稿。②年度内最低1回以上の研究発表(リサイタルまたはジョイントコンサート)を外部ホールにおいて行う。③自らの専門分野の研究(研究成果を応用する教育活動も含む)の意義を外部に対して発信し、理解を得るとともに外部資金獲得に積極的に行動する。④本学法文学部国際言語文化学科2年次の英語劇ミュージカル指導をとおして国際言語学科所属教員と共同研究(分担指導作業)をおこなう。⑤毎年行っている「琉大ミュージカル」の授業の成果発表(8月)、音楽科の成果発表としての「音楽科発表会」(3月)においてパンフレット掲載のスポンサー広告掲載費を外部資金として獲得し、それぞれの発表会の運営費に充てていく。これらのチケット収入に関しては、大学へプロジェクト寄付金として一端預け、翌年のそれぞれの運営基盤経費に充てていく。</p>		0.50	<p>①本年は他の執筆物が多く学会誌/紀要への投稿は差し控えざるを得なかった。②5回以上のコンサートに遠視研究発表(テノール独唱・指揮)を行った。③専門分野であるスペイン歌曲及びサルセラのコンサートを企画または監修・指導を多数行い、外部資金獲得へ向けての下地創りに務めた。④英語劇2014「フットルース」のバンド・オーケストラ指揮、合唱、キャスト歌唱指導に尽力し、教育学部英語教育及び法文学部国際言語文化学科の教員と分担作業による共同研究(教育指導法研究)を行った。⑤左記に掲げた諸々の活動を行った。</p>	
社会貢献	0.10	<p>①コンクールの審査等を通して、学外の音楽文化振興団体の主催する審議会に参画する。②専門分野における資料収集のため学外(海外を含む)への研究調査を積極的に行う。③小・中・高等学校からの依頼に応じて、専門分野の技術・理念を分かち合うワークショップ・後援会等を行う。④地域(海外を含む)における生涯学習的音楽活動に対し歌唱法・演奏法指導にも携わる。⑤国際貢献に関しては④に準ずる。⑥地域貢献に関しては③に準ずる。⑦所属専修(心理臨床科学)に関わるテーマに関して学外者・産業界関係者等より依頼があれば、カウンセリング等を行う。⑧本務に圧迫を与えない限りにおいて、兼任先(東京藝術大学、東京音楽大学、等)における教育活動を積極的に支援し、研究発表活動などの企画も行う。⑨二期会、東京室内歌劇場などプロフェッショナル・オペラ・プロデューズ団体に所属する歌手たちの指導、音楽会の監修を行う。</p>		0.10	<p>①NHK合唱コンクール沖縄大会、毎日新聞学生音楽コンクールの審査等を務め、学外の音楽文化振興団体主宰の審議会に出席した。②調査研究の海外渡航を複数回(台湾・台北市)行い、現地の青年音楽活動についての実態調査、資料収集に務めた。③アドヴァイザリースタッフとして2校に指導に赴きワークショップを行い、その他、小祿中学校での合唱指導や、附属小学校において合唱隊へ向けての各学級担任教諭への指揮指導を行った。⑤同左⑥同左⑦本年度は学外者や産業界関係者からのカウンセリング要請はなかった。⑧左記両大学にてスペイン歌曲演奏法の指導にあたり、東京音大では平成26年度本登録生と超公正による研究発表会を各1回開催し、東京芸大では2月9日に平成26年度の研究発表会を行うことになっている。⑨二期会スペイン音楽研究会特別講師をつとめ、東京室内歌劇場主催の「魅惑のスペイン歌曲vol.2」の監修・指導にあたり、双方ともプロフェッショナルの声楽家及びピアニストに対する指導にあたった。</p>	
管理運営	0.05	<p>①全学的委員会及び学部内の委員に選出された場合は、責任を持って役職を遂行する。可能な限り会議に出席し、内容を所属専修に伝達報告し、協議事項を会議に提出し、回答を委員会へ持ち帰るよう責務を遂行する。②大学院教員組織(音楽教育専修)上の務めを果たし、音楽棟の安全・資産管理、予算の発案管理に積極的に参与する。③入試業務における役割分担を責任を持って遂行する。</p>		0.05	<p>①委員会委員として役職を責任を持って遂行し、学科とのパイプ役としての使命を果たしている最中である。②左記責務を果たした。③左記責務を果たしている最中である。</p>	
進路指導	0.01	<p>①年次別懇談会での呼びかけや担任年次(2年次)の年次長との連絡を密にし、インターンシップ活用など進路に関する関心を高めさせることに努める。②音楽療法的フィールドへの在学生の積極的なボランティア参加を促し、施設関係者への学生の資質アピールに努める。</p>		0.01	<p>①先責務を果たし、特に学生への周知文書の周知(特に就職課空の就職ガイダンス関係の情報)に務めた。②左記責務を果たした</p>	
	0.04	<p>①現在行っている脳幹障害患者施設等への音楽療法的介入を継続し、機能回復等の診療・医療活動を推進する。</p>		0.04	<p>①同僚の実技教員とともに年度前半に特に時間を割き、音楽療法セッションを行った。</p>	
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名前	岡田 恵美		所属	教育学部 学校教員養成課程	職名	講師
職種	業 務 ウ ェ ィ ト 比 (予定)	平成26年度 年度目標設定	業 務 ウ ェ ィ ト 比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教 育	0.50	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学生の活発な意見や積極的な授業参加が促進されるような授業デザイン 2) 映像教材・音響教材やPPTを使用した視覚効果の高い授業プレゼンテーション 3) 教員採用試験を意図した授業内容および理解度テストの実施 4) 学生と教員による共同プロジェクトの推進 5) 新入生合宿運営におけるCATS(学生合宿運営委員)への支援および指導 	0.50	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学生の活発な意見や積極的な授業参加が促進されるような授業デザイン 各学生がテーマを決めて演習を行い、それを授業でプレゼンテーションする機会を設けた。学生は発表内容やプレゼン方法など、互いに刺激し合って工夫する場面も多く見られ、自主性が高くかつ対話型の学びの環境を提供できた。また今年度から、現職大学院WEBCLASSを利用して、後援者の授業を学生とワークシートやパワーポイント資料を事前にサイトにアップロードをしており、学生は好きな時にダウンロードをして予習や復習ができるユビキタス環境を提供することができた。また同システムのOB(5)掲示板を利用して、授業内容などについて受講生からの質問も頻りにあり、WEB上を通して受講生と教員の繋がりが出来たことが良かった。 2) 映像教材・音響教材やPPTを使用した視覚効果の高い授業プレゼンテーション 授業では、音響資料や映像資料、またパワーポイントを効果的に用いた。また、担当している講義科目において、各授業で使用するテキスト教材およびPPT教材をすべて独自に作成し、授業後に学習内容の振り返りが容易なように、できるだけ配布資料も細やかに用意した。 3) 教員採用試験を意図した授業内容および理解度テストの実施 専門科目においては、沖縄県の教員採用試験(中高音楽)の過去7年間の問題傾向を分析し、一部の授業では採用試験を意図した理解度テストや過去問題の解説も行った。 4) 学生と教員による共同プロジェクトの推進 本年度は4名の学生と共に、郷土音楽学習の一環として、近隣の小学生を対象とした「夏休み三線講座」を実施した。小学生でも工口が演奏できるような工夫を考慮し、独自の教材を作成した。3日間の講座で、全3編初級者の小学生達が、「夏里原ユンタ」まで演奏できるようになり、最後の発表会や終了後のアンケートから、三線を弾くことの楽しさ、沖縄の曲が弾けたという達成感を感じてくれたことが分かった。次年度以降も、継続していきたい。 5) 新入生合宿運営におけるCATS(学生合宿運営委員)への支援および指導 一昨年から引継ぎ、後期の地域文化交流実習を担当した。本年度も受講希望者が90名程と十分な参加があった。協賛先とした、学生の自主性を尊重しつつも、運営に異なるとして支援可能な体制を作り、情報共有化や他者への配慮など防言も行っている。1月にはCATS学生30名と1泊2日の予備合宿を行い、本研修に向けて現在準備中である。 その他 6) 公開授業による一般受講者の増加 「民族音楽学の授業では、他学部の受講生に加え、一般からも7名の受講があった。授業やWEBCLASS上で熱心に質問する学生もおり、当該学部の刺激剤にもなった。 7) プロジェクト「OKINAWA+WORLD 沖縄で世界音楽を感じる」の実施 プロジェクトとして行っている。「OKINAWA+WORLD 沖縄で世界音楽を感じる」を第9弾まで実施する事ができ、沖縄県各地と外部のミュージシャンと連携しながら、多くの学生と、世界各地の音楽の歴史や音楽、音楽法など、実践の場を通して交流する機会を提供できた。(本年度は、フラメンコ音楽・舞踊、アラブ古典音楽、民俗楽器講座) 		
研 究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 1) 科研究・若手研究Bの研究推進・海外調査実施 2) 所属学会・共同研究会・シンポジウムでの発表および論文投稿 3) 国立民族学博物館共同研究員としての共同研究プロジェクト推進および発表・論文投稿 	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 1) 科研究・若手研究B(24年度～27年度)の研究推進・海外調査実施 本年度は海外に遠征はなかった。研究対象地であるインドのガンダーラ州を中心としてフィールドワークを実施した。インタビュー調査や映像記録を編纂して、9月に日本南アジア学会で発表を行った。 2) 所属学会・共同研究会・シンポジウムでの発表および論文投稿 5月に国立民族学博物館のシンポジウムで米国研究者の発表に関するコメントとして参加した。9月に日本南アジア学会で発表を行った。1月に教育実践総合センター研究発表に論文投稿をした。 3) 国立民族学博物館の共同研究(23年度～26年度)推進 本年度は、最終年度のため、現在論文を執筆している。成果発表は論文として来年度出版予定である。 		
社 会 貢 献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 1) 所属学会・委員会への参加 2) 教大協奏楽部門全国大会での係 3) 音楽企画・演奏活動 	0.04	<ul style="list-style-type: none"> 1) 所属学会・委員会への参加 所属学会の東洋音楽学会において、昨年度、支部委員に就任した。 2) 教大協奏楽部門全国大会での係 本年度は、出席できなかった。 3) 音楽企画・演奏活動 9月に沖中友好協会の共同主催によって、南インドから舞踏家・演奏家を8名招聘し、「日印国交樹立60周年記念 南インド・ケララ州の舞踏音楽劇カタリ 来日公演(無料公演)を本学の大学会館ホールで実施し、学生や教員、一般から約250名程が観劇した。上演には、ケララ州の芸術や演目について解説も行った。また同様のプログラムを、与那原中学校の芸術鑑賞会でも行い、そこでも解説をした。11月には、同じケララ州の舞踏団モヒニヤットムの来日公演が国立劇場おきなわで行われ、ここでは芸術や舞踏についての解説、そしてサロード(インドの弦楽器)の演奏も行った。 		
管 理 運 営	0.04	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学生生活委員における貢献(新入生合宿運営、認定試験問題作成など) 2) 所属学部の管理運営における貢献 3) 入試関連業務における貢献 	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学生生活委員における貢献 本年度は、学生生活委員の企画ワーキングとして、4月および1月の合宿や、教育館(5)で先述した「地域文化交流実習」の授業を担当し、CATS学生の指導にあたった。また、教員採用試験セミナーの認定試験の問題作成、及びその解説、学科学生へのフィードバックを行った。 2) 所属学部の管理運営における貢献 教室使用の管理、美化委員会などを担当している。 3) 入試関連業務における貢献 本年度も外部入試問題作成や大学院入試問題作成を行った。 		
進 路 指 導	0.01	<ul style="list-style-type: none"> 1) 1年次指導教員としての学業面・生活面での意見聴取やサポート 2) 教員採用選考試験受験者へのサポート 3) 休学者・長期欠席者へのサポート 	0.01	<ul style="list-style-type: none"> 1) 1年次指導教員としての学業・生活面での意見聴取やサポート 指導教員の年次学生を中心に、合宿や懇話会を通して、学業や生活状況の把握を行い、重要な事項については頻りに連絡を取った。 2) 教員採用選考試験受験者へのサポート 管理運営委員の(1)に前述したように、認定試験の前は、過去問題の分析・解説を行い、認定試験受験者には、フィードバックを行った。また教員採用試験受験者(音楽)の二次試験対策として、三線の対策の機会を設けた。 3) 休学者・長期欠席者へのサポート 今年度は特に長期欠席者はいなかった。 		
	0.00		0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用して下さい。 ・協賛業務に従事している者は、「協賛の空欄(診療)」として年度目標を設定して下さい。 	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※最終シート(後)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年度5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	小川 由美		所属	教育学部 学校教員養成課程	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成26年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	<p>(1)講義を通して、音楽科授業に関する学生の実践力向上を目指す。その為に、レポート・模擬授業の企画実施・授業分析・その他授業に関するプレゼンテーション等の活動を段階的に行い、学生相互に意見交換する場を設ける。</p> <p>(2)「教育臨床研究Ⅰ」の講義の一環として、附属小学校において音楽科授業を実践し、教員自身の授業実践力向上を目指す。また附属小で実践する授業自体を、受講生との協働で創り上げていき、実践分析をすることで、受講生の授業づくり技術の向上をも目指す。</p>		0.30	<p>(1)「音楽科教育研究」(前期・後期)において、グループによる指導案作成・模擬授業の企画実施・授業分析・授業に関するプレゼンテーション等の活動を段階的に行った。1回ずつの課題を明確にし、グループ活動を中心に組み立てた。その結果、課題に対する活発な主体的な議論が、グループ及び全体交流の場で見られた。より教材開発に重点を置いたことで、教材への理解が深まり、小学校音楽科授業を構成する力、及び模擬授業における実践力(発問や教材提示の方法など)において向上が見られた。</p> <p>(2)「初等音楽科教育内容研究Ⅰ」の講義の一環として、附属小学校において沖繩のわらべうたを教材とした音楽科授業を教員自身が実践し、受講生はその授業分析を通して小学校音楽科授業における授業構成の視点を省察していく活動を行った。これにより、音楽科授業を構成する理論について実践と結び付けて考察し理解を深めている様子が見られた。</p> <p>(3)初等音楽科教育内容研究Ⅰの後半は、附属小中学校での教育実習に向けての教材研究を、「音楽科教育法Ⅱ」では、附属小中学校での教育実習での反省を踏まえた新たな教材開発を行った。実習の前後に教材分析を中心とした音楽科授業づくりを実践的に行うことで、学生が個々に抱えている課題に対応した授業プログラムとなった。</p> <p>(4)「音楽教育特論演習」(大学院授業)において、理論と実践の往還を目指したプログラムとして、今年度はパフォーマンス評価を取り入れた鑑賞活動を構想し、附属中学校にて研究授業を実施し、授業分析を行う。</p>
研究	0.30	<p>(1)学会発表(日本教科内容学会第1回大会5/3・4、日本保育学会第67回大会5/17,18、日本学校音楽教育実践学会第19回全国大会8/16,17)</p> <p>(2)論文寄稿(琉球大学教育学部紀要、日本学校音楽教育実践学会編『学校音楽教育研究』)</p> <p>(3)日本学校音楽教育実践学会全国大会における学会活動(常任理事、副事務局長、編集委員、第19回大会実行委員を兼任)</p> <p>(4)日本学校音楽教育実践学会における実践学事典編集にワーキングメンバーとして参加。</p>		0.30	<p>(1-1)日本教科内容学会第1回大会(於:鳴門教育大学、2014年5月3-4日)にて「郷土の教材から指導内容を導出する視点に関する一考察—沖繩のわらべうたや民謡を教材とした事例から」を口頭発表</p> <p>(1-2)日本保育学会第67回大会(於:大阪総合保育大学、2014年5月17-18日)にて「地域教材としてのわらべうた-沖繩のわらべうたの言葉・動き・音楽に着目した保育実践を通して-」を口頭発表</p> <p>(1-3)日本学校音楽教育実践学会第19回全国大会(於:熊本大学、2014年8月16-17日)にて自由研究「子どもの感性に響く郷土の音楽の教材性-沖繩県内小学校4年生の実践を通して-」を口頭発表</p> <p>(2-1)日本学校音楽教育実践学会編『学校音楽教育研究第19巻』に「子どもの感性に響く郷土の音楽の教材性-沖繩県内小学校4年生の実践を通して-」を寄稿(2015年3月発行予定)</p> <p>(2-2)日本教科内容学会誌に「郷土の音楽から指導内容を導出する視点—沖繩のわらべうたや民謡を教材とした事例から—」を投稿</p> <p>(3-1)日本学校音楽教育実践学会第19回全国大会実行委員として学会の運営に携わった。</p> <p>(3-2)日本学校音楽教育実践学会の常任理事(副事務局長を兼任)として学会運営に携わった。</p> <p>(3-3)日本学校音楽教育実践学会の編集委員として、紀要編集に携わった。</p> <p>(4)日本学校音楽教育実践学会における実践学事典編集にワーキングメンバーとして参加した。</p> <p>(5)2014年8月発行『生活感情を表現するうたづくり—理論と実践—』第1章これまでのうたをつくる学習活動の概観(黎明書房流分担任執筆 pp.8-13)。</p> <p>(6)2015年3月発行予定『音楽科 授業の理論と実践』5章2 学習評価の視点と方法(あいり出版を分担執筆)。</p>
社会貢献	0.20	<p>(1)関西音楽教育実践学研究会における研究発表及び教員養成系学生の育成。(月1回大阪教育大学にて開催される。)</p> <p>(2)音楽教育実践学研究会での研究発表:複数の教員養成大学による音楽教育分野の合同合宿を行う。合宿では各大学の大学院生及び、大学教員、各地の現職教員(幼小中高)が参加し、研究成果を交流することを通じて、音楽教育に関わる幅広い課題について議論する場を持つ。</p> <p>(3)「教育臨床研究Ⅰ」の講義の一環として、新しい形の音楽授業の提案として附属小学校にて大学教員が授業を行う。その授業を受講生が観察し、授業分析を行うことで、子どもの姿を通じた音楽授業の在り方を提言していく。</p>		0.20	<p>(1)関西音楽教育実践学研究会における研究発表及び教員養成系学生の育成を回った。(月1回大阪教育大学にて開催される。)本研究では、個人研究発表とは別に、今年度の特別企画として「音楽科の授業において育成する能力」をテーマに実践紹介及び検討会を行っている。</p> <p>(2)音楽教育実践学研究会での研究発表(2014年8月22-24日、於:ホテル北野プラザ六甲荘) 複数の教員養成大学による音楽教育分野の合同合宿を行った。合宿では各大学の大学院生及び、大学教員、各地の現職教員(幼小中高)が参加し、研究成果を交流することを通じて、音楽教育に関わる幅広い課題について議論する場を持った。</p> <p>(3)初等音楽科教育内容研究Ⅰの講義の一環として、新しい形の音楽授業の提案として附属小学校にて大学教員が授業を行う。その授業を受講生が観察し、授業分析を行うことで、子どもの姿を通じた音楽授業の在り方を提言した。その成果は、日本学校音楽教育実践学会第19回全国大会(於:熊本大学、2014年8月16-17日)自由研究「子どもの感性に響く郷土の音楽の教材性-沖繩県内小学校4年生の実践を通して-」として発表した。(2015年3月発行予定の同学会紀要にも寄稿している。)</p>
管理運営	0.10	<p>(1)学生生活委員で実施している新入生合宿研修に関して、委員外の合宿WGメンバーとして運営に携わり、合宿部会教員と学生運営委員40名と共に、2014年4月19(土)20日(日)沖繩県立玉城青少年の家にて「琉球大学教育学部新入生合宿研修」(新1年次、学生実行委員、教職員が参加)を実施する。</p>		0.10	<p>(1)学生生活委員で実施している新入生合宿研修の運営に携わり、合宿部会教員と学生運営委員40名と共に、2014年4月19(土)20日(日)沖繩県立玉城青少年の家にて「琉球大学教育学部新入生合宿研修」を実施した。また後期に開講される「地域文化交流実習」(次年度の学生運営委員が受講する科目)にワーキングとして携わり、学生指導にあたってのことである。</p> <p>(2)教育実践総合センターの地域連携部門にて、宜野湾市との連携をはかる。主に宜野湾市内(一部、渡嘉敷)の小学校にて教育実践学専修3年次が実習をする「小学校教育フィールドワークⅡ」の実施に向けての運営に携わった。「小学校教育フィールドワークⅡ」での成果報告については、学生作成の報告レポートを宜野湾市内小学校及び宜野湾市教育委員会等に配布予定である。</p>
進路指導	0.10	<p>(1)琉球大学教育学部で実施している認定試験の音楽科問題(小学校、中高共通)作成を一部担当。</p>		0.10	<p>(1)琉球大学教育学部で実施している認定試験の音楽科問題(小学校、中高共通)作成を一部担当。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。 学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		花城 梨枝子	所 属		教育学部 学校教員養成課程
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト 比(予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.10	授業内容に最新のものを入れる		0.10	授業には、常に最新の内容を入れている
研究	0.20	消費者市民教育について研究をすすめる		0.20	「消費者市民の経済リテラシー 消費行動に伴う社会形成を考える」『批判的思考』新曜社2015/1/21p.228-231
社会貢献	0.30	日本消費者教育学会理事 NPO消費者市民ネット沖縄理事 沖縄クレサラ被害をなくす会幹事 日本家政学会九州地区幹事および26年度大会実行委員 男女共同参画に関する基調講演(ているる 6月28日予定)		0.30	①日本消費者教育学会理事, ②NPO消費者市民ネット沖縄理事, ③日本家政学会九州地区幹事および26年度大会実行委員 ④沖縄県講演, 男女共同参画に関する基調講演(ているる 6月28日), ⑤岐阜県教育委員会講演(これからの消費者教育がめざすもの一高等学校における消費者市民教育の視点 8月20日), ⑥那覇市講演(消費者市民力を育てよう 9月11日) ⑦日本家政学会原論部会論文審査1編, ⑧日本教科教育学会論文審査1編, ⑨日本消費者教育学会論文審査2編
管理運営	0.30	生活科学教育教室主任 教育学部入試委員会委員		0.30	琉球大学附属図書館長(11月より)として職務を遂行している。(①部局長等懇談会企画経営戦略会議委員, ②教育研究評議会委員, ③広報委員会委員, ④環境・施設マネジメント委員会委員, ⑤国際交流委員会委員, ⑥全学教育委員会委員, 図書館に⑦附属図書館運営委員会委員長, ⑧図書館自己点検・評価委員会委員長, ⑨図書館学術情報基盤資料選定委員会委員長, ⑩研究開発会議議長(貴重書関係) 生活科学教育教室主任として職務を遂行している。 教育学部入試委員会委員として職務を遂行している。
進路指導	0.10	教員を目指す学生の教員採用試験支援		0.10	1次試験に合格した3人(過卒生2, 現役1:小学校1人, 中高校2人)の教員採用試験支援として模擬授業支援(消費生活における意思決定)をおこない, 1人合格した。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松本 由香		所 属		教育学部 学校教員養成課程		職 名		教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.35	被服学および教育実践学の専門科目の授業準備を充分に行い、専門性の高い教育を行う。そして受講学生の授業目標の達成をはかる。また教育実践学専修1年の担任として、学生生活全般をきめ細かくケアする。				0.40	授業については、前年度をふまえ、学生の教育目標に沿って、内容を変え、授業準備を充分に行って、授業を進めていった。特に後期の服装文化論をCOC事業に位置づけてもらい、県内の染め織りのつくり手10人を10週にわたって招聘し、地域志向教育を充実して行うことができた。				
研究	0.30	平成25年度から継続して沖縄および東南アジア地域の衣生活研究を行っていく。また昨年度の研究内容を、学会等で公表する。本研究は、科研費等の研究費申請をしており、研究助成金を獲得して行っていく。				0.25	前年度の沖縄の染め織り研究を継続し、今年度は、COC事業の採択を受けて、小浜島と久米島の染めについて聞き取り調査を行った。また昨年度の研究成果を、9月にUCLAで開催されたTextile Society of Americaのシンポジウムで公表した。また本学の学術図書助成を受けて、3月には、『インドネシアのファッション・デザイナーたち』と題した書籍を刊行する。				
社会貢献	0.15	昨年度調査した沖縄の衣生活・服飾文化に関する研究成果を、報告書等で公表する。また小・中学校家庭科教育の中の被服学教育の改善のため、教員研修の講座を担当する。				0.15	服装文化論のCOC事業で、沖縄の染め織りのつくり手10人を、服装文化論の講師として本学に招聘した。これを通して、受講学生とつくり手の交流の場を設けることができ、社会と大学を一つの局面で繋ぐことができたのではないかと考える。				
管理運営	0.15	教育実践学専修の教育委員として、専修の学生の科目履修、時間割、カリキュラムについて検討する。				0.15	教育実践学専修の教育委員の仕事とともに、今年度、大学院家政教育専修主任として、専修の管理運営、また大学院の大括り化への専修の意見のとりまとめ、課程認定の科目の調整などの仕事を行った。また人事委員として、昇任人事および採用人事にたずさわった。				
進路指導	0.05	ゼミおよび担任の学生の進路の選択について、親身になって助言を行う。特に教員志望の学生には、被服学内容について助言・教示を行う。				0.05	ゼミおよび担任の学生の進路について、自分の経験を活かして、親身になって大学院や専門学校進学、および教職希望学生にアドバイスを行った。また学生の奨学金申請や学部学生の転専修希望へのアドバイスなども行った。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		上地 完治	所 属	教育学部 学校教員養成課程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	学部専門科目である「学校教育リフレクション」を、さらに学生の発表と議論の比重が高い授業に改善する。		0.25	「学校教育リフレクション」では、学生による発表を従来の一人1回から2回へと増やし、8時間を学生による発表と議論に充てた。また、「道德教育の研究」もより実践的な内容を増やした。	
研究	0.35	科研費(基盤研究B)による助成研究の最終年度であるため、3年間の研究成果をまとめるとともに、平成27年度以降の新たな科研費研究助成の獲得をめざす。また、教育哲学会での課題研究のパネリストとして9月に発表するので、研究内容をまとめる。		0.35	科研費の研究のまとめは思うように進まなかったが、次年度の研究計画へとつながり、新たに3年間の基盤研究Bの研究助成を申請した。また、教育哲学会での発表以外にも日本道德教育方法学会で発表をおこない、論文執筆や出版など精力的に活動することができた。	
社会 貢献	0.10	県委託事業「学力向上先進地域育成事業」のプロジェクト「『考えること』と『話し合うこと』を中核にした道德授業の推進」の一環として、中城南小学校と1年間関わって道德授業改善に協力する。		0.20	中城南小学校での取り組みを年間を通しておこない、それ以外にもアドバイザースタッフ制度による道德授業改善のための指導助言をのべ10校、また県外学校での指導助言・講演を2回おこなった。	
管理 運営	0.20	琉球大学教員免許状更新講習実施室長の仕事と、教育学部の研究教育企画委員としての仕事で、責務を果たす。		0.18	琉球大学教員免許状更新講習実施室長の仕事と、教育学部の研究教育企画委員として責務を果たした。	
進路 指導	0.05	学部4年生6名と、大学院院生(M2)のゼミ生の進路について指導をおこなう		0.02	学部4年生6名と、大学院院生(M2)のゼミ生の進路について指導をおこなった。	
	0.00			0.00		
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		道田 泰司	所 属	教育学部 学校教員養成課程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を行う(ゼミ, 集中講義も含め, 前期週10コマ, 後期週9コマ) ・丁寧な授業準備と授業改善 ・受講生から授業改善のための積極的な意見の聴取, それに基づく振り返り 		0.30	<p>前後期とも, 登録者のいない授業を除き, 予定通りに授業を行った。毎回の授業に際しては, 前年度の反省を活かし, 改善をしつつ行った。ほとんどの授業で, 学生に毎時間振り返りカードを書かせることで, 学生からの意見聴取を行った。</p>	
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・データ収集, 分析, 学会発表, 投稿(科研費のプロジェクト) ・研究関連の情報収集 ・論文執筆 ・附属小学校, 附属中学校における共同研究 ・書籍などへの原稿執筆, 編集など 		0.15	<p>科研費プロジェクトのデータ収集・分析／書籍(編著書)1冊刊行, 1冊企画 中／紀要論文1本投稿中／全国学会で発表2件／年間通して, 附属小との密な共同研究／附属中にて共同研究。</p>	
社会 貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許更新講習の講師 ・その他研修会における講師 ・小中学校などにおける校内研講師 		0.15	<p>免許更新講習(必修領域:2日間)／小学校1校, 中学校3校で校内研講師(うち1校は3回)／石川県小中学校教育研究会第2回研究大会にて講師。</p>	
管理 運営	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実践学専修教室主任として ・教育実践学専修, 大学院心理学コースにおける入試業務遂行 ・教育実践学専修で, 複数教員で持つ科目や行事の企画運営(小学校教育フィールドワーク, 教職実践演習など) ・教育学部教育研究企画委員として 		0.35	<p>教育実践学の教室主任を務めた／その他共同での授業科目運営にも全力を注いだ／例年通り, 入試業務に従事した(学部, 大学院とも)／教育研究企画委員として教職大学院の企画に携わった。</p>	
進路 指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ所属学部学生(計8名)を中心とした教育実習の視察・指導助言, 進路相談・指導など ・1年次指導教員として 		0.05	<p>教育実践学専修所属3年生の教育実習を20時間ほど見学をし, 教育実践に関する情報収集ならびに指導助言を行った／1年次指導教員として, 懇談会その他の通常業務以外にも, 現職教員の話聞く回を開催し, またアンケート結果を基に個別に進路その他の相談を行った。</p>	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		小野寺 清光	所 属		教育学部 学校教員養成課程
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	①電気電子系講義に関し、実践的な教育力を養なうことを目的に、小中学校の教材開発に資する実習内容を積極的に取り入れていく。 ②附属中体験授業(7月)を実施する。		0.20	①「電子回路・機器制御及び実習」では、ブレッドボードを用い自ら回路を考える実習を増やし、「電気磁気・電子回路学及び実習」では、中学校技術科エネルギー変換に関する調査テーマ発表を実施した。 ②附属中3年生を対象に、「LEDを利用して光と色について考える」と題し、熱放射とルミネセンスに関する体験授業を実施した(7月)。 ●講義はもう少し教材開発を取り入れたかったため、「B」と判断する。
研究	0.30	①中学生向け二足歩行ロボットの教材開発及びシミュレーション構築に取り組む。 ②LEDを用いた工作教材開発を実施する。 ③中学生に向けた圧電素子を用いた発電床試作法を構築する。		0.30	①中学生向け2種類の二足歩行ロボット教材(チェビシェフリンクと運動スライダリンク)のリンクによる歩行の違いに関し、産技学会九州支部大会にて発表した(10月)。ODEを用いたリンクのシミュレーション構築に取り組んだ。 ②附属小6年生に対し実施したLEDランタン教材を活用した研究授業に関し、産技学会九州支部大会にて発表し(10月)、論文として投稿した(12月)。 ③発電床試作法についてはレシビを整備した。 ●研究成果取りまとめは予定通りであるが、新たな進展が少なく、「B」と判断する。
社会貢献	0.05	①教員免許状更新講習の講師として現職教員教育に貢献する。 ②日本産業技術教育学会九州支部理事として学会運営に取り組む。		0.05	①「電子回路入門と電気電子ものづくり」と題して、小学校から高校の現職教員に対し、教員免許状更新講習を実施した(7月)。 ②日本産業技術教育学会九州支部理事として学会運営に取り組んだ。九州支部大会では電気分野の座長として貢献し(10月)、2件の論文査読を実施した。 ●遅滞なく実施しており、「A」と判断する。
管理運営	0.30	①副学部長及び学校教員養成課程長として、学部運営・将来構想企画に取り組む。 ②学生生活委員会委員長として、学生指導及び委員会の運営を実施する。 ③全学情報システム運用委員会の部局技術責任者として、部局委員会の運営に取り組む。		0.30	①副学部長として、特に、H29学部改組やH28教職大学院設置に関わる学部運営・将来構想企画に取り組んだ。 ②学生生活委員会委員長として、学生の生活指導・就職学修支援等に関わる運営に取り組み、年間5回の委員会を開催した。 ●ほぼ計画通りであり、「A」と判断する。
進路指導	0.15	①学生生活委員会委員長として、就職支援・進路指導に取り組む。 ②技術教育1年次指導教員として学生の状況を細かく把握し、履修指導、生活指導を行う。		0.15	①学生生活委員会委員長として、教員採用試験対策セミナーや認定試験の運営を継続的に推進すると共に、学生委員会委員を通じて、就職活動支援事業へ学生が積極的に参加するよう定期的な情報提供を実施した。 ②1年次指導教員として新入生台宿(4月)に参加すると共に、履修指導や小中選修登録指導などを継続的に実施。 ●ほぼ計画通りであり、「A」と判断する。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		清水 洋一	所 属		教育学部 学校教員養成課程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	1)前期・後期合わせて学部15科目(卒業研究Ⅰ・Ⅱ含む)、大学院8科目(課題研究ⅠA・ⅠB及びⅡA・ⅡB含む)の講義・実習等を行う。2)卒業研究及び修士論文の指導を行う。3)附属小・中学校の研究授業の支援や教材開発を協同で行なう。5)外国人研究生2名(学部1名、研究科1名)の指導教員を務める。6)総合環境学副専攻「総合環境学概論」を1コマ担当する。		0.35	1)前期・後期合わせて学部15科目(卒業研究Ⅰ・Ⅱ含む)、大学院11科目(計測技術特論、同演習及び技術教育教材開発の3科目を追加開講)の講義・実習等を行った。2)卒業研究2名及び修士論文2名の指導を行った。3)附属小・中学校の研究授業や教材開発を支援した。5)外国人研究生2名(学部1名、研究科1名)の指導教員を務めた。6)総合環境学副専攻「総合環境学概論」を1コマ担当した。		
研究	0.35	1)日本エネルギー環境教育学会や日本産業技術教育学会等において研究発表を行う。2)沖縄エネルギー・環境教育研究会の代表を務め研究・教育実践を行う。3)国際会議(タイ国・アユタヤ)において研究発表を行う。4)海を活かした教育PJにおいて、海洋エネルギーに関する教材開発及び教育実践を行う。5)小中学校における海洋エネルギー教育実践校のネットワークづくりを推進する。6)中学校技術科教諭・県教育センター・企業等と連携し、情報教育関連のWSを開催する。		0.35	1)日本エネルギー環境教育学会第9回全国大会(東邦大学)において2件、日本産業技術教育学会九州支部大会(福教大)において2件の研究発表を行った。2)沖縄エネルギー・環境教育研究会の代表を務め研究会を4回開いた。3)国際会議(タイ国・アユタヤ)において2件の研究発表を行った。4)、5)海を活かした教育PJにおいて、海洋エネルギーに関する教材開発を行うとともに、附属中、興南中、粟国中において授業実践を行った。6)中学校技術科教諭・県教育センター・企業等と連携し、OISTIにおいて情報教育関連のWSを開催した。		
社会貢献	0.20	1)平成26年度琉球大学公開講座を実施する。2)小・中学校等へ出前授業を実施する。3)沖縄の産業まつり、県民環境フェア等にて、エネルギー環境教育に関する普及・啓発活動を行う。4)琉球大学生協・理事長を務める。5)那覇市温暖化対策協議会・会長を務める。6)環金武湾地球温暖化対策地域協議会・会長を務める。7)沖縄地方コージェネ協議会の委員を務める。8)平成26年度沖縄ガス保安協会・甲種機械講習会の講師を務める。9)琉球大学サテライトキャンパスにおいて出前講座を実施する。		0.20	1)平成26年度琉球大学公開講座を2回実施した。2)那覇市立識名小・高良小、沖縄市立中の町小及び附属中において出前授業を実施した。3)QAB夏休み子ども自由研究、識名っ子祭り(識名小)及び県民環境フェアin宮古島にて、ブース展示及びエネルギー教材を紹介した。4)琉球大学生協理事長を務めた。5)那覇市温暖化対策協議会会長を務めた。6)環金武湾地球温暖化対策地域協議会会長を務めた。7)沖縄地方コージェネ協議会座長を務めた。8)平成26年度沖縄ガス保安協会・講習会講師を務めた。9)琉球大学COC事業において出前講座を3回(那覇市、宮古島市、石垣市)実施した。10)JAXA宇宙飛行士ミッション報告会において小中高校生対象の工作・実験教室及びトークセッションの司会を務めた。		
管理運営	0.05	1)教育委員会委員及び教員養成課程部会長を務める。2)全学学士教育プログラム委員会委員を務める。3)共同研究推進委員会委員を務める。4)教育実践総合センター運営委員を務める。5)財務・施設管理に関する自己点検・評価委員会委員を務める。		0.05	1)、2)教育委員会委員、教員養成課程部会長及び全学学士教育プログラム委員会委員を務めた。3)、4)共同研究推進委員会委員及び教育実践総合センター運営委員を務めた。5)財務・施設管理に関する自己点検・評価委員会委員を務めた。6)琉球大学環境報告書2014の内部審査員を務めた。		
進路指導	0.05	教員採用試験対策の一環として、適宜、担当する講義・実習等を通して、関連する過去問題について解説する。		0.05	教員採用試験対策の一環として、適宜、担当する講義・実習等を通して、関連する過去問題について解説するとともに、進路・就職について指導・助言を行った。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	福田 英昭		所 属	教育学部 学校教員養成課程		職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	①「職業指導」(前期および夏の工学部集中講義)の毎回の講義内容を公開するため、研究室のホームページを毎週更新する。②木工室の設備更新調査票を作成し、古い木工機械の設備更新を行う。③前期の講義「木材加工基礎」、「木材材料学」および「職業指導」を一般向けの公開授業に設定する。④3年前から新設開講された前期の「小学校ものづくり実習Ⅰ」および後期の「小学校ものづくり実習Ⅱ」の講義の新規教材開発を行う。⑤研究成果の内容を「木材材料学」の講義内容に反映させる。⑥講義「ものづくり」において、新規の製作題材を開発する。		0.25	①「職業指導」を前期および夏期集中講義で実施し、講義用のホームページを毎週更新した。②老朽化等教育研究用設備更新経費として、木工室の設備更新申請を行ったが、学部内順位は4位となり、更新予算が獲得できなかった。③一般向けの公開授業として設定した「木材加工基礎」では3名、「木材材料学」では2名の一般受講者がいた。④「小学校ものづくり実習Ⅰ」および「同実習Ⅱ」では、新たに水耕栽培や、パソコンによる設計・飛行シミュレーションソフトを用いた発砲スチロール飛行機製作を導入し、新たな教材開発を行った。⑤研究成果の内容を「木材材料学」に反映した。⑥「ものづくり」では学生たちに新規で25製作題材を発表してもらった。⑦「職業指導」と「教室環境整備」で、それぞれゲスト・ティーチャーを1名ずつ招いて話をしていた。		
研究	0.30	①研究室の紹介および研究成果を紹介するため、研究室のホームページを更新する。②研究課題「児童・生徒の教室用机・椅子の検討」のデータを分析し、教育学部紀要に論文を投稿する。③前村(社会)、岡本(技術)、仲間(美術)先生と共に3年前からスタートした紙漉き研究会を継続し、紙漉きの新しい教材・教具(賞析など)を開発し、県委託事業の申請型プロジェクトとして地域の小・中学校で紙漉き体験学習を実施する(本年度の申請型プロジェクトの配分予算は300千円、プロジェクト代表:前村)。また、紙漉きに関する論文を本年度も学部紀要等に投稿する。④外部資金の「沖縄の教育機関におけるアオガンビ等の和紙材料植物栽培と和紙抄造の教材化に関する研究」(平成25年度一般財団法人 沖縄美ら島財団 調査研究・技術開発助成事業、2013年8月～2014年7月、金額685千円、研究代表:福田)を継続し、報告書を作成する。		0.30	①研究室のホームページでは「職業指導」関連の更新は頻りに行ったが、研究室の紹介と研究成果の紹介の更新は不十分であった。②「児童・生徒の教室用机・椅子の検討」のデータ分析はできたが、学部紀要に投稿するまでに至らなかった。③前村、岡本、仲間先生と共に紙漉き研究会を月1回開催し、紙漉きの新しい教材・教具を開発・購入することができ、8月に一般社会人向け(学校教員含む)に、和紙づくり工程が体験できる研修会(3日間)を実施した。また、1月には中城南小学校6年生(60名)を対象に、紙漉き体験授業(2日間)を実施した。県委託事業(MSP)の予算を使って、紙漉き体験に関するリーフレットを作成した。また、1月には教育実践総合センター紀要に、「沖縄県の学力向上に寄与する紙漉き体験学習」を投稿し、ものづくりの教育的意義について分担執筆した。④外部資金の沖縄美ら島財団 調査研究・技術開発助成事業として、紙漉きの教材開発を行い、和紙の原料を確保するために学部内にコウゾやアオガンビ等の植栽を行い育成している。⑤ゼミ学生とともに、鎗挽き・鉋がけについてモーションキャプチャを用いた3次元動作分析を行った。⑥日本産業技術教育学会九州支部論文集の査読(1件)を担当した。⑦東京書籍株式会社の中学校教科書「技術・家庭科」編集協力委託委員を担当し、教科書の編集を行った。⑧11月の日本キャリア教育学会第36回研究大会(沖縄大会)の実行委員として、企画・運営を行った。⑨第15回全国中学生ものづくり競技大会 九州地区大会(木工チャレンジコンテスト、鹿児島)の審査員を担当した。		
社会貢献	0.20	①沖縄県立芸術大学において開講される「図法及び製図」(通年)の非常勤講師を担当する。②本年度も県委託事業「学力向上先進地域育成事業」の指定地域系委託型プロジェクトの沖縄市グループのチーフとして、指定校4校の学びと育ちの支援活動を行う(沖縄市の委託型プロジェクトの配分予算は1,202千円を予定)。また、沖縄市立越來小・中学校の研究授業を支援する。③沖縄エネルギー・環境教育研究会(代表:清水洋一先生)の連絡係として、定例研究会を執り行い、各種イベントや出前授業等の企画・運営を行う。		0.25	①沖縄県立芸術大学で「図法及び製図」を通年で担当した。②県委託事業(MSP)の指定地域系委託型プロジェクトの沖縄市グループのチーフとして、指定校4校の校内研修会等に参加し、指導助言を行った。また、越來小・美原小・美東中へ学部学生と共に訪問し、学習支援ボランティア活動(約20日間の放課後の学習支援)を実施した。一般向けのMSP教育フォーラム(1月開催)では総合会を担当した。③本年度は、沖縄エネルギー・環境教育研究会の取り組みは特になかった。④修学旅行で琉球大学にやってきた高校生[茨城県立牛久栄進高校(34名)、神奈川県立津久井浜高校(82名)、聖望学園高校(260名)]向けに、平和学習の特別講義や討論会を実施した。⑤沖縄市第三者評価委員会委員(本年度2期目)を担当した。⑥沖縄県立南部商業高等学校 学校評議員を担当した。		
管理運営	0.15	①教室主任として、教室運営・管理を行う。②学部の教育実習委員として、介護等体験部会副部長を担当し、企画・運営する。③全学の企画経営戦略推進本部内「研究のとんがりプロジェクトチーム」委員として、「競争的資金獲得ワーキンググループ」の報告書を作成する。④日本教育大学協会 九州地区技術教育部門の全国委員として各種調査に協力する。		0.15	①教室主任として、教室運営・管理を行った。②学部の教育実習委員として、介護等体験部会副部長を担当した。③「研究のとんがりプロジェクトチーム」委員として、「琉球大学の強み・特色を活かした研究推進の実行プラン」(答申)を作成した。④日本教育大学協会 九州地区技術教育部門の全国委員として各種調査に協力した。⑤教育学部の教員選考委員として、保健体育、国語、家政の昇任・採用3件を担当した。		
進路指導	0.10	①4年次の指導教員として、技術教育専修学生と大学院生の履修指導等を行い、進路相談を行う。②「職業指導」の講義で受講学生に最新の就職関連情報を提供する。③技術教育同窓会の書記・会計担当者として、本年度に開催される「技術教育同窓会の総会」の企画、案内状送付、運営を行い、また、技術教育専修の卒業生の動向をチェックし、会員データベースを最新のものに更新する。		0.05	①4年次の指導教員として、専修学生と大学院生の履修指導・進路相談を行った。②講義「職業指導」で、学生に最新の就職関連情報を提供した。③技術教育同窓会の書記・会計を担当した。本年度に開催が予定されていた同窓会総会は延期となった。④学生の教員採用試験の受験に際して、推薦書等を作成した。		
	0.00			0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	新垣 学		所 属	教育学部 学校教員養成課程		職 名	講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・組込型コンピュータを利用した教材を授業に取り入れる。 ・学生が学習結果を発表および卒業後も復習できるように、ホームページを製作する能力を養成するとともにその更新を支援する。 ・生活科教育概論における担当分の授業の作成 ・学生へ学習環境を提供するため、ネットワーク及びコンピュータの管理。 ・教育実習生への指導・助言 		0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科教育概論におけるものづくりに関する授業に向けた教材作成および実践を行った。 ・組込型コンピュータを利用した自立走行車の製作を授業に取り入れた。 ・学生が学習結果を発表および卒業後も復習できるように、ホームページを製作する能力を養成するとともにその更新を支援した。 ・学生へ学習環境を提供するため、ネットワーク及びコンピュータの管理を行った。 ・教育実習生2名の授業を観察し、指導・助言を行った。 		
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を鑑みた組込型コンピュータを利用した教材開発。 ・教員免許更新講習用教材の開発 		0.35	組込型コンピュータを利用した教材を開発し、教育学部紀要にまとめた。これは教員免許状更新講習でも利用可能。		
社会貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許状更新講習を開講する。 		0.16	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許状更新講習を2回行った。 ・アイデアロボット沖縄県大会の審査委員を務めた。 		
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・発明審査委員会の委員としての業務を行う。 ・エコロジカルキャンパス推進委員会の委員としての業務を行う。 ・図書紀要委員としての業務を行う。 ・投票管理委員としての業務を行う。 ・2年次指導教員としての業務を行う。 ・入試に関する問題作成および、監督又は警備を行う。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・発明審査委員会の委員として業務を毎月行った。 ・エコロジカルキャンパス推進委員会の委員として業務を行った。 ・図書紀要委員委員として業務を行った。 ・投票管理委員委員として業務を行った。 ・2年次指導教員としての業務を行った。 ・入試に関する問題作成および、監督および警備を行った。 		
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次指導教員として進路指導を行う。 ・就職支援のために認定試験問題の作成を行う。 		0.04	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次指導教員として進路指導を行った。 ・認定試験問題として中学校技術および一般教養の情報と、中学校技術の栽培分野の問題作成を行った。 		
	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		萩野 敦子	所 属		教育学部 学校教員養成課程	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.20	①担当する学部および大学院の国語科関係の科目において「日本文学概論」「日本古典文学講読」等の古典文学関連科目のほか幾つかのオムニバス科目を担当し、それぞれシラバスに掲げた目標への到達をめざす。②教育学部事業として「コックさん学校」の世話役を務める。			0.20	①担当する学部および大学院の国語科関係の科目において「日本文学概論」「日本古典文学講読」等の古典文学関連科目のほか幾つかのオムニバス科目を担当し、それぞれシラバスに掲げた目標に近い授業を実施できた。②教育学部事業として「コックさん学校」の世話役を務めた。		
研究	0.20	①平成24～27年度科学研究費助成研究「近世琉球和文学の考究および沖縄版『伝統的な言語文化』としての教材化」を着実に進める。②所属している狭衣物語研究会で刊行予定の論集に編集委員として参画する。③沖縄県の小学校国語科教育の授業に関わる本の分担執筆を担当する。④『新時代の源氏学』シリーズの依頼原稿をまとめる。(年度内に刊行予定)			0.20	①平成24～27年度科学研究費助成研究「近世琉球和文学の考究および沖縄版『伝統的な言語文化』としての教材化」に関連して、特に高校の国語教材について検討した。②狭衣物語研究会で翰林書房より出版した『狭衣物語 〈文〉の空間』に論文を発表、同書の編者も務めた。③小学校国語科教育の実践本『おきなわ小学校国語授業のあじまー』で「伝統的な言語文化」の学びについて執筆した。④『新時代の源氏学2』に論考を発表した。⑤『言語文化論叢』に論考を投稿した。		
社会 貢献	0.25	①県委託事業の浦添市グループ全般および中城村グループ内の中城南小学校の担当(ないしは担当補佐)として教育現場との協働を深める。②石垣市立大浜中学校の教員授業力向上支援を継続する。③教員免許状更新講習に講座を提供、夏休み期間に実施する。④アドバイザースタッフとして、要望があれば授業現場等での助言などを行う。⑤琉球新報社「高校生読書体験記コンクール」審査員を務める。			0.25	①県委託事業の浦添市担当として沢岬小・浦添中の活動に携わった。また中城南小にも足を運んだ。教育フォーラムで登壇した。②石垣市立大浜中学校の教員授業力向上支援を行った。③教員免許状更新講習に講座を提供、夏休み期間に実施した。④中頭地区中学校国語研究会(6月)で講話を行った。⑤琉球新報社「高校生読書体験記コンクール」審査員を務めた。		
管理 運営	0.25	①全学では、研究推進戦略室研究企画委員、男女共同参画室委員を務めることになっているので、それらの責務を全うする。②学部では、教育研究企画委員として将来構想に関わる。③国語教育教室の教育委員としての責務を全うする。⑤前期入試科目「国語」問題の作成委員を務める。			0.25	①全学委員である、研究推進戦略室研究企画委員(1月より研究推進会議委員)、男女共同参画室委員を務めた。②学部では、教育研究企画委員として将来構想に関わり、特に修士課程のWGとして活動した。③国語教育教室の教育委員を務めた。⑤前期入試科目「国語」問題の作成委員を務めた。		
進路 指導	0.10	一人でも多くの教員採用試験合格者を、現役・既卒生から出せるように、小論文や模擬授業等の個人指導などを中心に適宜学生を支援する。			0.10	一人でも多くの教員採用試験合格者を現役・既卒生から出せるようお願い、小論文や模擬授業等の個人指導を行った。指導したなかから現役で2名、既卒生でも複数名の合格者を出すことができた。認定試験の分担部分について問題作成を行ったほか、中高国語の問題を取りまとめた。また小学校の一般教養国語について、セミナー(事後解説)を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高良 倉成	所 属	教育学部 学校教員養成課程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	経済学概論, 国際経済論, 経済学特講, 経済時事問題演習, 島嶼社会演習をつつじて専門教育を行う。また, 教職実践研究(前期)および教職実践演習(後期)において学生の教職課程の総決算をはかる。		0.20	経済学関連の授業は当初目標どおり行ったが, 受講生は例年より少なめであった。また教職実践研究および同演習の担当ははじめてであったが, 教職課程の総決算であるはずのこの科目に対して学生の覇気は乏しく, 次年度以降の実施方式を再検討する余地がある。	
研究	0.25	『社会学評論』(社会学会)投稿論文について, レフェリーとの応酬を6月までに終えて, 完成させる。同論文を踏襲したつぎの課題として, 『中央公論』における「社会」用語法の検証を行う。		0.20	『社会学評論』のレフェリーとの応酬に予想以上の時間を要したため, 投稿論文が誌上に公開されるのは年度を跨ぐ可能性がでてきた。また, 『中央公論』の戦前刊行分については本学図書館の収蔵状況が悪く, それを素材にした用語法検証はまだ十分に進んでいない。	
社会貢献	0.00			0.10	当初目標にはなかったが, 日本教育大学協会企画委員会委員として委員会審議, 対文科省声明の原案についての協議などに携わった。	
管理運営	0.50	評議員としての職務を果たす。		0.50	学部運営会議内での分担職務, 全学の委員会等の職務について, それぞれ専念した。	
進路指導	0.00			0.00	とくに進路指導したわけではないが, 卒論ゼミ生の一人が就職内定を得た。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		田中 洋	所 属		教育学部 学校教員養成課程	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.45	授業計画に基づきながらも、学生の理解・意欲に応じた修正を図るなど、適宜柔軟に対応する。その際、学生数や受講学生の内訳等には特に配慮する。			0.45	それぞれの授業の規模や特性に応じて、学生の主体的学習を促す取組を行った。例えば、大人数の共通教育科目「憲法概論」では、期末試験の他に、簡単なレポートを複数回課したり、20人前後の授業では、ブックレポートを課したりした。		
研究	0.30	現在の採択課題である「災害発生時における学校の法的責任」について、中間年度であることを踏まえ、一定の成果を学会等で発表する。 また、昨年度助成を受けた「八重山教科書問題の法的分析」について、成果をまとめて、学術誌等への投稿を行う。			0.30	科研費の採択課題である「災害発生時における学校の法的責任」については、11月の日本教育制度学会で、自然災害時の学校の法的責任に関する判例をまとめた発表を行った。 一方、「八重山教科書問題の法的分析」については、成果をまだまとめきれていないため、未投稿である。		
社会貢献	0.05	教員免許状更新講習の講師として、学校現場でより役立ちうる講義となるように努める。			0.05	教員免許状更新講習において、必修領域の一部を担当し、できる限り具体的な内容となるように心がけて、講義を行った。		
管理運営	0.10	教育実習委員として、実習等が円滑に実施されるように努める。 特に、専修の学生が行う教育実習については、他の教員と協力して、できる限り観察に行けるよう配慮する。			0.10	教育実習委員として、実習を行う専修の学生への円滑な連絡等に努めるとともに、介護等体験指導部会の一員として、介護等体験指導が、効果的かつ円滑に行われるように、他の部会員の先生方や学務担当職員の方との連携に努めた。		
進路指導	0.10	2年次指導教員として、授業等を通じて学生の状況を把握し、学習意欲の向上に資するよう、適宜援助を行う。			0.10	2年次指導教員として、各学期の懇談会の他、授業等の機会を通じて、各学生の状況把握に努め、適宜、援助に努めた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		前村 佳幸	所 属		教育学部 学校教員養成課程	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	小学校9教科の社会科関連科目を担当。体験学習を取り込み内容の充実をはかる。教育実践演習に参加する。専門科目では歴史学独自の視座や事物紹介に努める。			0.25	構想していた内容を概ね展開させることができた。		
研究	0.35	学術研究助成基金助成金(基盤研究C:平成25年度～平成27年度)による研究課題「球陽外巻『遺老説伝』の総合的研究」を推進する。並行して近世琉球史に関する論考を発表する。中国史の領域では内外で史料を収集し実地調査を行う。			0.35	成果の一部を教育学部紀要第85集と『東京大学経済学部資料室年報』5号(3月末刊行)に掲載。沖縄県内の典籍に対する料紙の調査を行った。近世琉球史関連の原稿を完成した。台湾での史料調査を踏まえ中国史の論文を教育学部紀要86集に掲載。		
社会貢献	0.25	ひきつづき、「沖縄県の子どもの学びと育ちを支えるプロジェクト」の企画を推進。紙漉きを教育活動のテーマとして他分野の教員との協働により、小・中学校や地域との連携を深める。			0.25	学校教員やNPO職員を招いての研修会(8月)、中城南小学校での体験授業を実施(2015年1月)。昨年度以来の成果を教育実践総合センター紀要22号の連名論文としてまとめた。さらに、リーフレットを作成。		
管理運営	0.05	学部内外の委員会等の担当はないが適宜協力していく。			0.05	適宜協力する体制を維持することができた。		
進路指導	0.10	3年次指導教員として、履修・学生生活指導、行事にあたる。			0.10	全員が各自の撰修に基づき附属小中学校での教育実習を終え、4年次に向けて学業を進めている。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		白尾 裕志	所 属		教育学部 学校教員養成課程
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.60	(1)「社会科教育研究」では、学生が①教材の開発方法、②授業の展開方法、③児童の掌握方法を理解し、授業構想が立てられるようにする。 (2)「生活科教育研究」においては、生活科が児童の生活を学校(教育)で自由に表現できる仕組みをつくることが最も重要であることを実践の分析を通して理解できるようにして、授業構想が立てられるようにする。 (3)「小学校教育研究法Ⅰ」では、代表的な社会科教育実践から社会科の授業構想に必要な条件について実践の分析を通して理解し、見識を深めることができるようにする。		0.60	(1)「社会科教育研究」では、学生が①教材の開発方法、②授業の展開方法、③児童の掌握方法を理解し、授業構想が立てられるように指導し、学生自らの社会科教育構想をもたせることができた。 (2)「生活科教育研究」においては、生活科が児童の生活を学校(教育)で自由に表現できる仕組みをつくることが最も重要であることを実践の分析を通して理解できるように指導し、学生自らの生活科教育構想をもたせることができた。 (3)「小学校教育研究法Ⅰ」では、代表的な主な教科教育実践から授業構想に必要な条件について実践の分析を通して理解し、見識を深めることができるように指導し、学生自らの教育実践について構想をもたせることができた。またそれを基礎に卒業論文のテーマを考察・選択・設定することができた。
研究	0.20	(1) 自らの社会科教育実践の特徴をまとめる。 (2) 沖縄の5年生児童の学力を把握して、学力向上に向けた実践的提案についての研究を進める。		0.10	(1) 自らの社会科教育実践をまとめ、平成26年11月に「種子島から『日本』を考える授業」(同時代社)から出版した。 (2) 教育実践学の科目「フィールドワーク2」を通して学校現場へ出向き、沖縄の5年生を中心に児童の学力を把握に努めた。
社会貢献	0.10	(1) 教育学部附属教育実践総合センターの「地域連携事業部門」において、中城南小学校での研究に協力し、生活科の実践力向上に努める。 (2) 教育学部附属教育実践総合センターの「アドバイザー事業部門」において、該当学校に赴いて協力して研究を深める。		0.10	(1) 教育学部附属教育実践総合センターの「地域連携事業部門」において、中城南小学校での研究と運営に協力した。 (2) 教育学部附属教育実践総合センターの「アドバイザー事業部門」において、中城中学校に赴いていじめについての講演を行い、人権の大切さを伝えた。
管理運営	0.10	(1) 学内委員の「共同研究推進委員」として関係諸機関と連携をとりながら共同事業に参加して、必要事項を「教育実践学教室」へフィードバックして、業務を遂行する。		0.20	(1) 学内委員の「共同研究推進委員」としての仕事はしていない。 (2) 教職大学院創設に向けたワーキンググループとして、先進大学の視察や報告、設置審に向けての会議や書類作成等に尽力した。
進路指導	0.00			0.00	
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		神園 幸郎	所 属	教育学部 学校教員養成課程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ○学生を支援員として教育現場に派遣して教育実践を体験させ、実践力の養成に努める。 ○発達障害児の余暇活動の促進と学習支援を目的とする「土曜教室」を拡充し、学生の臨床経験の充実と実践能力の向上を図る。 ○大学院生をティーチングアシスタントとして学部学生の授業に参加させ、教育内容や教授法の開発に係る資質を育てる。 ○卒業研究の構想発表会を公開し、FDとして実施する。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ○学生を支援員として教育現場に派遣して教育実践を体験させ、実践力の養成に努めた。 ○発達障害児の余暇活動の促進と学習支援を目的とする「土曜教室」を拡充し、学生の臨床経験の充実と実践能力の向上を図った。 ○大学院生をティーチングアシスタントとして学部学生の授業に参加させ、教育内容や教授法の開発に係る資質を育てた。 ○卒業研究の構想発表会を公開し、FDとして実施する。 	
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ○日本特殊教育学会において研究発表を行う。 ○日本自閉症スペクトラム学会において研究発表を行う。 ○日本自閉症スペクトラム学会の理事として職責を果たす。 ○科研費の研究実績報告書を作成する。 ○自閉的退行に関する総説を執筆する。 ○「発達支援教育実践センター紀要」に論文を投稿する。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ○日本特殊教育学会において研究発表を行った。 ○日本発達心理学会において研究発表を行った。 ○日本自閉症スペクトラム学会の理事として職責を果たす。 ○科研費の研究実績報告書を作成した。 ○自閉的退行に関する総説を執筆した。 ○「発達支援教育実践センター紀要」に論文を投稿した。 	
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ○浦添市デイサービス事業「たんぽぽ園」の発達相談を担当する。 ○南城市適正就学指導委員会において委員として就学判定を行う。 ○西原町適正就学指導委員会において委員として就学判定を行う。 ○西原町立小学校4校で発達障害児支援の巡回相談を行う。 ○沖縄県適性就学指導委員会の委員として就学判定を行う。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ○浦添市デイサービス事業「たんぽぽ園」の発達相談を担当した。 ○南城市適正就学指導委員会において委員として就学判定を行った。 ○西原町適正就学指導委員会において委員として就学判定を行った。 ○西原町立小学校4校で発達障害児支援の巡回相談を行った。 ○沖縄県適性就学指導委員会の委員として就学判定を行った。 	
管理運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ○教育実習委員として職責を果たす。 ○「土曜教室」の実施に伴う施設管理、参加児童の安全管理に努める。 ○特別支援教育学生支援員を募集し県教育委員会へ学生を斡旋する。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ○教育実習委員として職責を果たした。 ○「土曜教室」の実施に伴う施設管理、参加児童の安全管理に努めた。 ○特別支援教育学生支援員として県教育委員会へ8名の学生を斡旋した。 	
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ○4年次指導教員として学生の進路相談と就職情報の提供等に努める。 ○卒論を担当する2名の学生の進路相談や就職情報の提供に努める。 ○修了論文の指導を担当する特別支援教育特別専攻科生4名の進路相談および就職情報の提供等に努める。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ○3年次指導教員として学生の進路相談と就職情報の提供等に努めた。 ○卒論を担当する2名の学生の進路相談や就職情報の提供に努めた。 ○修了論文の指導を担当する特別支援教育特別専攻科生4名の進路相談および就職情報の提供等に努めた。 	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		田中 敦士	所 属		教育学部 学校教員養成課程
職 名		准教授			
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	①講義では、特別支援教育の学校現場で必要となる実践的スキルも体得できるよう、現職教員が使用するマニュアルなども含めて教授するほか、できるだけ模擬授業も取り入れる。また採用試験に向け毎週小テストを実施して意識啓発を図る。②卒業研究8名および修士論文2名へのゼミ指導では、学生の学びたいテーマを優先させ、必要に応じて実践現場の見学や学外専門家を紹介する。③国内外の学会で院生にも発表の機会を与え、投稿論文についても積極的な支援を行う。		0.30	①「知的障害者教育課程論」では採用試験対策も兼ねて毎回小テストを実施して緊張感を高め、「知的障害者の指導法Ⅰ、Ⅱ」では学校現場でよく使われる指導法や模擬授業を数多く実践した。2年前に本講義を受講した学生は、沖縄県特別支援枠で1次受験者150名中1位と6位で2名が最終合格するなど講義の効果を実感している。②卒業研究の成果は必ず社会にフィードバックすることをゼミ生には課しており、論文投稿したり学校管理職に成果を提供した。③院生に対しては国際学会での発表の機会を与え、論文投稿も実現した。
研究	0.30	①科研費(挑戦的萌芽研究;代表:H26-27)「八重山諸島における小中学校の近未来～教育人口学的アプローチ」が採択されたため、研究組織を構築して精力的に学校現場を訪問し調査を進める。②科研費(基盤研究B;分担:H26-28)「発達障害児における不器用の解明と指導法の開発」が採択されたため、学会でシンポを行う。③知的障害者、発達障害者の就業支援やキャリア教育等に関する研究をすすめ、成果を学校現場に還元するほか、国内外の学会誌等への論文掲載と国際学会発表で合計10本(共著含む)を目標とする。		0.20	①科研費(挑戦的萌芽研究;代表:H26-27)では、県教育委員会(県立学校教育課・義務教育課)、八重山教育事務所、石垣市・竹富町教育委員会の全面的協力を得てスタートし、西表島の全学校を訪問調査した。②科研費(基盤研究B;分担:H26-28)では、日本特殊学会でシンポを行い約200名の参加者を得た。③昨年は9編の学術論文(うち5編は査読のある国際学会誌)が受理され、国際学会の2発表も加えると合計11本となった。
社会貢献	0.20	①沖縄県立大平特別支援学校の学校評議員として、特別支援教育と学校運営に関する協力を行う。②沖縄障害者職業センターや関係支援機関などと連携し、うつ病からの復職支援に関する実践家に研究成果を提供し助言を行う。③県外から訪沖する知的障害のある修学旅行者への公開講座を開催し、大学で学ぶ機会を提供する。④国際学会を主催者としてかわかり、最新の情報を学べる機会を提供する。⑤教員、支援者や保護者らからの相談に積極的に対応する。		0.30	①沖縄県立大平特別支援学校の学校評議員として、特別支援教育と学校運営に関する協力を行う。さらに美咲特別支援学校花咲分校、沖縄盲学校の学校評議員も依頼され、毎月頻りに学校現場へ出向いて助言や協力を行った。②沖縄障害者職業センター等と連携し、復職支援に関する助言を行った。③東京都立青峰学園から訪沖する知的障害のある修学旅行者ら約100名への公開講座を開催した。④国際学会を主催者として運営した。⑤教員、支援者や保護者らからの相談に毎週対応した。昨年は沖縄県教育委員会特別支援教育支援員配置校検討委員会の委員に選任されたこともあり、指導主事への助言が頻りに求められた。
管理運営	0.10	①学部改組に伴う特別支援教育の養成課程改革に係り、教育委員会や学校現場と連携してニーズ調査を進める。②教育委員会、学生生活委員会、共同研究推進委員会などの委員会活動に努める。③特別支援学校教育実習等での学生指導を担当する。④推薦入試の導入など入試改革を中心に取り組む。⑥日本教育大学協会全国特別支援教育部門との窓口として調整する。		0.10	①学部改組に伴う特別支援教育の養成課程改革に係り、教育委員会や学校現場と連携してニーズ調査を進めた。特に盲、ろう学校からの要望が近年大きいため、月1ペースで訪問したほか、全教員へのアンケート調査も実施した。②教育委員会、学生生活委員会などの委員会活動に努めた。③特別支援学校教育実習等ではメンタルや行動面で不安のある学生へきめ細やかな支援を行った。④推薦入試の導入など入試改革を中心に取り組んで構想を検討した。⑥日本教育大学協会全国特別支援教育部門との窓口として調整した。
進路指導	0.10	①県内の教員採用試験受験予定者には2次面接対策などを個別に設定する。②県外の教員採用試験受験予定者には、昨年度までの合格者の小論文などの各種資料を提供し助言を行うとともに、該当するOBがいれば紹介する。③海外の日本人学校受験希望者には、卒業生で海外勤務している学生からの情報を提供する。④大学院修士進学希望者に対しては、大学院の情報や研究計画への助言を丁寧に行う。⑤希望学生に対しては1次試験に向けて教職教養等に関する模擬試験を実施する。		0.10	①県内の教員採用試験受験予定者には2次面接対策などを個別に設定し、希望者2名全員が合格した。②県外の教員採用試験受験希望者には、昨年度までの合格者の小論文などの各種資料を提供し助言を行った。③海外の日本人学校受験希望者はいなかった。④大学院修士進学希望者に対しては、大学院の情報や研究計画への助言を丁寧に行い、離島の学校現場へも約2週間動向向率して指導にあたった。⑤希望学生2名に対しては1次試験に向けて教職教養等に関する模擬試験を認定試験とは別に実施した。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		石川 雅雄	所 属		教育学部 学校教員養成課程
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.40	<p>「幾何学序論Ⅰ・Ⅱ」「線形代数学Ⅰ・Ⅱ」等の共通教育・学部・大学院科目等の科目を適切に提供する。数学教育専修10年入学生の指導教員として、必要に応じて指導を行う。授業評価アンケート等をもとに学生の要望を取り入れ、講義の組み立てを見直す。特に講義毎の演習問題を行うことによって、学生の理解を確実なものにすると共に評価の適正化に努める。微積分や数学オリンピックの問題を取り入れ、興味を湧かせると共に計算力を強化する。</p>		0.40	<p>「幾何学序論Ⅰ・Ⅱ」「線形代数学Ⅰ・Ⅱ」等の共通教育・学部・大学院科目等の科目を15回提供した。出張の際には補講をちゃんと行った、数学教育専修10年入学生の指導教員として、また卒業研究として、アルフォースの「複素解析」および高崎先生の「線形代数と組合せ論」を読む指導を行った、特に毎回の線形代数学Ⅰ・Ⅱの講義ではマークシートによる出欠確認及び演習問題を行った。幾何学序論では毎回の演習問題を全て採点して返却することによって、学生の理解を確実なものにすると共に、努力した分が明確に評価に反映されるようにした。後期は微積分問題を取り入れ、計算力を強化するようにした。また、4年生の教職実践研究、教職実践演習の授業を行い、学外からゲストティーチャーを招へいし、模擬授業やそれに対するアドバイス等を行った。</p>
研究	0.40	<p>研究代表者である基盤C『交代符号行列・平面分割の数え上げ組合せ論と行列式・パフィアンの研究』及び分担者である基盤B『平面分割、交代符号行列の代数的組合せ論と関連する表現論、数理論理学の研究』に沿って代数的組合せ論の研究を行う。また、国際雑誌や国際学会で研究結果を積極的に公表する。アメリカで開催されるFPSAC'14 や韓国で開催されるICM'14に参加し、積極的に研究発表を行っていく。</p>		0.40	<p>研究代表者である基盤C『交代符号行列・平面分割の数え上げ組合せ論と行列式・パフィアンの研究』及び分担者である基盤B『平面分割、交代符号行列の代数的組合せ論と関連する表現論、数理論理学の研究』に沿って代数的組合せ論の研究を行った。シカゴで開催されるFPSAC'14 や韓国で開催されるICM'14に参加し、積極的に研究発表を行った。他にもフランスのJian Zeng 氏を訪問し、共同研究を行った。その他にも国内のいくつかの研究會に参加して研究発表も行った。また、学習院大学の中野氏、津田塾大学の貞広氏と共にタイリングとダイマーモデルについての共同研究を行った。</p>
社会貢献	0.00	<p>学外の国際研究集会への参加や海外研究者の招聘を行う。</p>		0.00	<p>京都大学数理解析研究所の Kirillov 氏を招へいした。</p>
管理運営	0.10	<p>専修内の事務分担や学部内委員会委員等(入試委員)の職務を行う。</p>		0.10	<p>入試委員としてオープンキャンパスを行うと共に、それ以外のいくつかの職務も行った。</p>
進路指導	0.10	<p>学生に対して、教育活動の一環として、講義等の場を通じて就職・進路指導を行うよう努力する。また、4年生の指導教員として適切な進路指導を行う。</p>		0.10	<p>4年生の進路指導を行った。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		加藤 満生	所 属		教育学部 学校教員養成課程	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	共通教育, 専門教育, 大学院教育において学生の理解度に合わせた講義演習を行う。			0.25	共通教育, 専門教育, 大学院教育において学生の理解度に合わせた講義演習を行った。		
研究	0.25	複素鏡映群をモノドロミー群にもつ微分方程式の研究を行う。			0.25	複素鏡映群をモノドロミー群にもつ微分方程式の研究を行い, 神戸大学において研究発表した(共同講演)。		
社会貢献	0.25	現職教員との研究会を定期的に(週1回程度)行う。			0.25	現職教員との研究会を定期的に(週1回程度)行った。		
管理運営	0.25	教育委員として管理運営に携わる。			0.25	教育委員として管理運営に携わった。		
進路指導	0.00				0.00			
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小田切 忠人	所 属		教育学部 学校教員養成課程	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.20	研究科では数学教育専攻の、学部では教育実践学専修および数学教育専修の講義やゼミを分担する。			0.20	予定通り、講義・ゼミを担当した。		
研究	0.20	研究会で研究成果の報告を行うとともに、科研費研究(「基礎数学学習にスペシャル・ニーズのある子への教育介入データベースの活用」(3年目)を進め、その研究成果を研究会や研究雑誌で報告する。			0.15	数学教育協議会第62回全国研究大会で「幼年期の算数」分科会の座長・主報告者を務めた。また、雑誌『数学教室』(No.749～No.760)で「算数にスペシャル・ニーズがある子どもたち」を連載した。		
社会貢献	0.10	共同研究者として教育現場の授業づくりを支援する。			0.05	竹富町及び大宜味村の教育委員会主催の研究会に合わせて四回参加した。そのほか、石垣市及び沖縄市内の小学校を訪問した。		
管理運営	0.48	学部長として大学と学部の業務を遂行する。特に、ミッションの再定義後の学部・研究科の改組計画の概要を教授会の理解を得て決定したい。			0.59	教職大学院設置予定H29からH28への変更を10月教授会で提案するなど、無理な計画をしたが、学部運営会議および教育研究企画委員会の協力・努力があつて、改組計画の大旨を教授会および学長・理事には理解していただいた。		
進路指導	0.02	教育実践学2年の指導教員の一人として学生指導に当たる。また、学部の認定試験問題の作成や解説に協力する。			0.01	三名の指導教員の一人として担当した。		
	0.00							
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松本 修一		所 属	教育学部 学校教員養成課程		職 名	教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.30	共通教育と専門教育に関する講義の他に、大学院生の指導を通して責務を果たす			0.30	共通・専門双方において、学生との対話を重視する教育方法を徹底して実施した。共通教育では相当高度な内容であったにもかかわらず、相当数の学生が最後まで聴いてくれた。専門教育でも、数学を玩味する態度を、学生がかなり身に付けてくれたように思う。大学院生も順調に育っている。教育においてはある程度十分に責務を果たしたと考える			
研究	0.30	量子論によって固有時を解析する研究を継続する。特に量子場の記述方式を用いて、テンポ演算子の定式化を完成する			0.30	研究方針に甘さがあったことが原因で、半年間を無駄に費やした。目標に定めた定式化には道半ばと言う状態であり、論文にまとめることもできなかった。来年度はこのような無駄の無いよう、十分注意したい			
社会 貢献	0.30	誰でもが自由に Web 上で利用できる算数及び数学の自学自習支援システムを充実させる			0.30	やっと昨年7月にホームページを公開することができた。数学教育における教育目標についての私見、その達成に向けて提案したいテキスト、等を掲載した。講義の記録も毎週更新している。講義の内容や教育理念を誰でもが閲覧できる状態にすることは、非常に大事なことだと痛感した。色々な意味で大きな収穫を得たと考える			
管理 運営	0.05	教育実習委員の責務を果たす			0.05	教育実習委員としての、各施設回りなどの形式的責務については、概ね果たしたと考える。ただ、大学生に対する私の教育目標は「自律性の養成」であり、実習委員としての仕事を通してそういった考えを十分学生に説いたかと言うと、疑問符が付く			
進路 指導	0.05	年次指導教官の仕事を通して、学生の進路指導に当たる			0.05	特に積極的な学生3人に対して、木曜日の夕方から4時間ほどのゼミを開始した。半年が経過した現在、推論にたくましさを感じられるようになってきた。数学を考えることを楽しめるようになってきた。教職に対する意識を高める為に、高い理念をもって実際に現場で活躍している先達を呼び、講演などをしてもらっている			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		山城 康一		所 属		教育学部 学校教員養成課程		職 名		准教授	
領域		業務 ウェイト比 (予定)		平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)		平成26年度 年度末自己点検結果			
教育		0.20		専門科目:代数学 共通教育科目:統計学 院:特論の興味深い授業 学部ゼミ4年生2人、院生1人のそれぞれの分野への意欲の持続 webclassの利用		0.30		専門、共通の授業においてwebclassを利用し、授業ノートの配布、授業内容に関する質問への回答、アンケートの実施を行った。専門の授業ではポリドロンを配布、立体図形に対する造形を養った。またコックさん学校の活動でもwebclassを利用し、過去のデータの活用を補助した。普天間小学校の校長をお招きして、学生向けの講義をお願いした。			
研究		0.40		部分環の列に関する研究の継続 平田分離拡大環の諸結果の強分離拡大環への拡張 ある種の圏論的システムの構築		0.10		研究を継続。			
社会貢献		0.20		九州数学教育研究大会における指導助言 沖縄県数学教育会大学部会事務局 来年度九州数学教育研究沖縄大会に対する取り組み		0.30		沖縄県数学教育会大学部会事務局長。第68回九州数学教育大会高等学校部会において、指導助言。MSP普天間小学校担当。沢岷小学校校内研の指導助言。普天間小学校校内研の指導助言×2。			
管理運営		0.20		コックさん学校		0.30		「沖縄県の子どもの学びと育ちを支えるプロジェクト」として模擬学校「コックさん学校」の活動を行った。			
進路指導		0.00				0.00					
		0.00				0.00					
計		1.00		・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00		・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		韓 昌 完		所 属		教育学部 学校教員養成課程		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.25	①肢体不自由者の心理・生理・病理および障害者発達支援総論は適切なテキストが市販されていないため、テキストを作成し独自の学習資料を提供する。②特に医療との連携を想定しながら医学的知識も習得させるため、医学の基礎的な部分も教授する。③修士課程の指導において、学術雑誌および紀要に研究論文を投稿掲載する指導を行う。④卒業論文の指導では、紀要に論文投稿できるように指導を行う。⑤修士課程の留学生の修論指導及び進路指導を行う。				0.25	①肢体不自由教育に関するテキストを執筆し、出版した(インクルーシブとQOLを考える肢体不自由教育、Asian Society of Human Services学会出版部 ISBN978-4-908023-00-2) ②障害者発達支援総論のテキストを作成し、学生に提供した。 ③病弱児の心理・生理・病理の授業では解剖生理学、病理学的な視聴覚資料を提示しながら授業を行った。 ④修士課程の留学生の指導の結果、国際学術ジャーナルに2本、紀要に2本、国際学会発表が1本の研究業績をあげ、これにより奨学生に選ばれた。 ⑤卒業論文の指導により国際ジャーナルに1本の論文の掲載が決まった。 ⑥修士課程の留学生の進路指導を行い、韓国の教育関連企業の就職が決まった。 →年度目標の130%程度の達成。				
研究	0.40	①国際ジャーナルに論文1本以上掲載。 ②国内ジャーナル(紀要を含む)に論文1本以上掲載。 ③外部資金(科学研究費補助金等)の獲得にChallengeする。 ④国際学会に1本研究発表を行う。				0.40	①国際ジャーナルに論文4本掲載。 ②国内ジャーナル(紀要を含む)に論文5本掲載。 ③科学研究費補助金の獲得にChallengeし、A判定を頂いた。結果、平成25年度研究プロジェクト支援事業に採択された(140万円) ④国際学会に4本、国内学会に2本研究発表を行った。 →年度目標の200%程度の達成。				
社会貢献	0.15	①海外からの教育研修を積極的に受け入れ、講演を開催する。 ②県からの研修講師等をできる限り引き受ける。 ③国外、県外から専門家、院生を招き勉強会を開催する。				0.15	①Asian Society of Human Services主催の研究会を開き、講師を務めた。 ②平成26年度沖縄県教育委員会教育職員免許法認定講習インクルーシブ教育システム構築モデル事業(担当科目:肢体不自由教育総論)の講師。 ③平成26年度 第2回特別支援教育市町村連絡協議会、小中学校におけるインクルーシブ教育のこれからーの講師。 ④韓国コンテンツ学会の学術理事、韓国社会サービス学会国際理事、韓国社会福祉政策学会の国際担当理事を務めた(国際貢献)。 ⑤国際誌・国内誌の論文査読を計5件行った。 →年度目標の130%程度の達成。				
管理運営	0.15	①専修主任を担当する。 ②発達支援教育実践センター運営委員会の委員を担当する。 ③全学国際交流委員会の学部代表を担当する。				0.15	①専修主任を担当した。 ②発達支援教育実践センター運営委員会の委員を担当した。 ③全学国際交流委員会の学部代表委員を務めた。 ④全学の学生交流専門委員会の委員として、奨学生の審査、海外学生派遣の審査、面接等の活動を行った。 ⑤附属小学校の入試アドバイザーとして活動した。 ⑥代議委員会の委員として活動。⑦教務委員会の委員として活動。 →年度目標の130%程度の達成。				
進路指導	0.05	①学部指導担当学生を修士課程に進学させる。 ②教員採用試験の試験対策としての勉強会を開催する(月1回程度)。 ③修士課程の指導担当留学生の進路指導を行う。				0.05	①指導学生を修士課程1名(琉球大学)、研究生1名(東北大学医学部)進学させた。 ②教員採用試験対策の勉強会を開催した。 ③修士課程の留学生の進路指導を行い、関連企業の内定が決まった。 ④担当学生の指導の結果、平成26年度琉球大学学業成績優秀者に選ばれた。 →年度目標の110%程度の達成。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		湯澤 秀文	所 属		教育学部 学校教員養成課程	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.40	各講義に対する学生の質問や感想を随時取り入れ、これを授業の改善等を通じてフィードバックして行く。また、近年の研究成果や情報も適宜取り入れ、講義の質の向上に努める。			0.40	ほぼ毎回の講義において、学生からの質問や感想を、主に記述を通して聞くことができ、結果をそれ以降の講義の改善に役立てることができた。また、近年の研究の動向等も適宜活用した。その結果、これらに関する学生の感想記述は、概ね講義の趣旨に沿うものが多かった。		
研究	0.40	研究テーマに関する資料・情報の収集、教材開発、授業研究、授業実践、学会参加等を通じて、算数・数学科教育及び教師教育に関する研究と実践を進める。			0.40	研究テーマに関する資料や情報を収集し、実践や考察を深めることができた。		
社会貢献	0.10	学会や附属学校、公立学校の研究大会や研修、授業研究会等における指導・助言等の要請に可能な限り応え、学校や大会の運営に協力する。			0.10	附属学校における研究大会や校内研修、教育実習等での指導・助言のほか、公立学校や各種研究団体等からの研究会・研修会等についても可能な限り依頼を受け入れ、指導・助言等を行った。		
管理運営	0.05	所属委員会の活動に取り組む。			0.05	所属委員会より依頼された業務に関しては責務を果たすことができた。		
進路指導	0.05	ゼミや指導年次の学生の進路相談、修学相談等を随時行う。			0.05	採用試験の指導や進路相談を随時行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		永津 禎三	所 属		教育学部 学校教員養成課程
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	昨年度に引き続き、小学校教科科目「小専美術」、共通教育科目「美術って何?」、および、専門科目「絵画 基礎, I, II, III, 演習」の授業改善を出来るところから取り組み、授業内容の変更による教育効果を検証する。 「連版画」を論文にまとめるため、今学期も教育実践を継続する。		0.25	今年度は、沖縄県立博物館・美術館で内間安理展が開催され、これと連動して、「小専美術」の後学期の授業を、「連版画」を主とした授業に大幅に変更した。これまでの講義中心の授業から、制作や学生同士の関わり合いが主となり、意欲的な受講態度を引き出せたが、基本的な知識の習得は弱く、今後このバランスをとれるようカリキュラム改善を進めたい。
研究	0.50	安次嶺金正の絵画作品について研究を進め今年度中に論文にまとめる。 Turbulence Seriesの絵画作品を展開する制作を行う。 附属中学校美術教員と教材開発・授業実践についての共同研究を行う。		0.50	安次嶺金正研究は、今年度の沖縄県立博物館・美術館研究紀要に昨年度のシンポジウムでの私の発表が掲載される。その後の調査から新たな事実の発見もあり、論文にまとめるのは来年度以降とする。附属中学校美術クラブの生徒を対象に「連版画」を実施、多くの知見が得られた。さらに美術館ワークショップや小専美術の授業でも「連版画」を実施したので、これらの成果を来年度にまとめたい。
社会貢献	0.15	要請があれば、Advisory Staff 派遣事業等に協力する。		0.15	沖縄県立博物館・美術館の「夏休み子どもフェスタ」で版画体験ワークショップを附属小学校教諭の河辺志保先生と8月に実施、教員向けワークショップ「彫り進みリレー版画」を9月に実施した。また、漫湖水鳥・湿地センターで自然遊び「ヒトカメラとカメラマン」ワークショップを11月に実施した。いずれも、教育研究と関わる多くの知見が得られた。
管理運営	0.05	教室主任および専修主任としての職務を遂行する。		0.05	教室主任および専修主任としての職務を遂行した。
進路指導	0.05	認定試験について依頼分の問題作成を行う。 県内学校の補充教員や非常勤講師等への採用に向け学生を支援する。		0.05	認定試験について依頼分の問題作成を行った。 昨年度に引き続き、附属中学校教諭の前田紫先生と教員採用試験の第二次試験に合格した卒業生に模擬授業の予行演習を実施、2名の最終合格者を出した。 年度末を迎え、補充教員や非常勤講師等への採用に向け学生を支援したい。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		遠藤 洋志	所 属		教育学部	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.40	小学校9教科「体育 I (水泳)」を担当するにあたり、十分な教材研究等の準備をして授業に望むとともに安全に留意して行う。共通教育カリキュラム改革に関連して実施している健康運動系科目の演習については、教免法との整合性に留意しながら実施する。			0.40	前年度共通教育科目対象ではあるが今年度にプロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞したことは励みとなった。前年度と同等以上の水準で授業に臨んでいたのも極めて良好であったと判断する。		
研究	0.40	科研費の課題については)分担者として当初計画に基づき研究を遂行する。年度内には新規の科研費の申請を少なくとも1件以上行いたい。日本財団からの助成金については計画通り実施し、次年度の成果刊行物発刊を見据えて十分な成果がもたらされるようにする。			0.40	研究計画通り以上の成果を達成したため極めて良好であったと判断する。		
社会 貢献	0.10	教員免許状更新講習(3科目)を計画通り実施する。			0.10	計画通りに実施でき、受講者からも高い評価を得たので極めて良好であったと判断する。		
管理 運営	0.10	全学の2委員会(留学生センター運営、短期留学プログラム実施)および学部の教室主任を遺漏なく務める。			0.10	十分に務めを果たすことができことから極めて良好であったと判断する。		
進路 指導	0.00	院生および学部生の就職および進路指導についてはup to dateな社会情勢の把握に努めながら日常の中でも随時実施する。			0.00	就職に直結する特別セミナーをエクストラで実施し、可能な限りの就職支援をした。十分な成果は得られなかったが、おおむね良好であったと判断する。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		増澤 拓也	所 属		教育学部 学校教員養成課程	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	積極的に演習を取り入れた授業計画の実現 学生が学習利用できる心理実験プログラムの開発 学生から授業改善のための意見の聴取			0.30	実験演習を取り入れた授業を実施した processingとWiiバランスボードを用いたCOPデータ算出プログラムを作成した 授業終了後、授業に対する意見聴取の時間を個別に設けた		
研究	0.35	研究雑誌に2編以上投稿する。 競争的研究資金を2件以上応募する。 学会(研究会)発表を3回以上おこなう。 実験環境整備(プログラム開発, 研究者ネットワークの構築)			0.40	競争的研究資金を1件応募した 学会(研究会発表)を4回おこなった processingとkinectを用いた動作解析プログラムの作成した インターネットを用いた他大学とのバランス勉強会の実施した		
社会 貢献	0.10	運動学習研究会への参加。 バランス勉強会への参加。			0.10	運動学習研究会の企画・運営をおこなった バランス勉強会へ参加した		
管理 運営	0.10	入試関連委員会での入試問題作成。			0.10	入試問題を作成した		
進路 指導	0.10	教員養成試験のための試験問題作成。			0.10	教員養成講座の試験問題を作成した		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		松田 伸也		所 属		教育学部 学校教員養成課程		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.42	学部および大学院の担当する講義を行う。				0.42	前期:理科教育法D、自然科学概論、理科教育実践研究A1、理科教育実践研究B1、理科教育特論A2の講義を行い、理科教育研究を2クラス各4回(計8回)を分担して行った。後期:理科教育法C、理科教育実践研究A2、の講義を行い、入門地学6回を1クラス、理科教育研究を2クラス各4回を分担して行った。4年生1名の卒業研究を指導した。				
研究	0.46	炭酸塩岩の教材化のための基礎的研究として、堆積物生産者(石灰藻類など)の研究を進める。				0.46	理科教育学会九州支部大会において、教職実践演習の取り組みについて発表した(3人共同の3番目)。昨年共同執筆した無節サンゴモの英文総説単行本(Springer:全19章のうちの1章、約6ページ程度、4人共著の第3著者)の査読後の改訂稿の作成に参加した。サンゴモの形態分類学的研究を進めた。				
社会 貢献	0.02	日本理科教育学会九州支部評議員を務める。				0.02	日本理科教育学会九州支部評議員を務めた。				
管理 運営	0.05	教育学部共同研究推進委員を務める。				0.05	教育学部共同研究推進委員を務めた。				
進路 指導	0.05	理科2年次学生研究室所属理科4年次学生の進路相談に応じる。教育学部の認定試験の問題作成に分担者として参加する。				0.05	教育学部の認定試験の問題作成に分担者として参加した。沖縄県教員候補者選考試験対策セミナープログラムの講師(一般教養:理科)を務めた。理科2年次学生および研究室所属理科4年次学生の進路相談に応じた。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		柄木 良友		所 属		教育学部 学校教員養成課程		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.50	担当授業を行う。				0.50	担当授業を行った。				
研究	0.20	研究結果を論文として投稿する。東大物性研究所の嘱託研究員として研究を行う				0.20	研究結果を論文として投稿した(査読中)。東大物性研究所の嘱託研究員として研究を行った。				
社会貢献	0.00					0.00					
管理運営	0.30	理科教育専修主任、研究科理科教育専修主任、極低温センターの保安係員代理者、極低温センターの運営委員としての職務を行う。				0.30	理科教育専修主任、研究科理科教育専修主任、極低温センターの保安係員代理者、極低温センターの運営委員としての職務を行った。				
進路指導	0.00					0.00					
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		杉尾 幸司	所 属	教育学部 学校教員養成課程	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	学部および大学院の担当科目の授業内容について検討し、改善を実施する。また、教免法の改訂にともなって実施が義務付けられた教職実践演習およびその前提科目である教職実践研究を実施し、外部機関とも連携して効果的な内容になるように努力する。		0.30	学部担当科目および大学院担当科目ともに、前年度の学生による評価結果等を参考に改善を行った。また、教職実践研究・演習を外部機関(沖縄こどもの国)と連携して実施し、学生の教育実践力向上に寄与する取り組みを行った。	
研究	0.35	新たな研究を進めるとともに、これまでの研究内容についてまとめ、学会等での発表や研究論文等の投稿に努める。また、科学研究費補助金等の外部資金の獲得を積極的に行う。		0.35	外部資金として、「科学研究費補助金(基盤研究C:研究代表)」を獲得し、研究を進めた。これまでの研究成果は、学会において発表するとともに、論文投稿を行い学部紀要に掲載された。	
社会貢献	0.15	附属学校等での研究授業および授業討論会等に参加し、助言を行う。また、小中高の教育現場と連携した取り組み等の対外的な協力についても積極的に行う。		0.15	附属学校で行われた研究授業に参加して助言等を行った。また、沖縄県教育委員会より、スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員の委嘱を受け、球陽高校の運営に対し指導・助言を行った。	
管理運営	0.10	全学委員会委員としては、琉球大学附属資料館運営委員として、各管理運営に関する事項についての責任を果たす。また、教育学部における各種の取り組みにおいても、積極的に協力する。		0.10	全学委員会委員としては、琉球大学附属資料館運営委員として、各管理運営に関する事項についての責任を果たした。また、大学院改組に伴うWGにも所属し、積極的に協力した。	
進路指導	0.10	課題研究担当の学生を中心に、教員採用試験等に向けての積極的な指導・助言を行い、進路に関しての適切な支援体制を構築する。		0.10	研究室所属学生に対して、教員採用試験等に向けての積極的な指導・助言を行うなど、適切な進路指導等を実施した。最終的には、担当学生は大学院進学を希望し、希望通り合格することができた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岩切 宏友	所 属		教育学部 学校教員養成課程	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.45	○物理学実験の講義を通して、基礎的な物理の実験手法の確立や、コンピュータの活用方法、論理的な文章の書き方などを指導する。 ○卒業研究の指導により、自発的研究能力や科学的思考能力の育成を行う。研究室所属の二名の大学院生については研究者としての基礎的な資質を育成する。 ○教育学部における物理教育法を高度化し、その手法を確立して講義に生かす。			0.45	物理学に関する講義については十分な学習効果が得られたように感じる。なお講義の内容は本年度履修学生に応じて昨年度から15%程度変化させた。また3人の学部学生と2名の修士課程の学生に対する研究指導および物理教育を行い、プレゼンテーション技術や文章作成、科学的思考力の育成に成果があったように思える。		
研究	0.38	○核融合炉研究に関連した計算材料科学についての研究を進展させ、学会及び学術論文として発表する(この研究は外部資金の獲得と関連する)。 ○トランスサイエンス問題とエネルギー環境教育に関する研究を進展させる。 ○量子ビーム照射効果についての諸研究を進展させ、学会及び学術論文として発表する。			0.40	固体中における水素とヘリウムの挙動に関する計算機シミュレーションについて、着実な成果が得られ、複数の学会で発表した。エネルギー環境教育については、1件の論文を「エネルギー環境教育学会誌」に投稿し、受理後発行された。トランスサイエンスに関する研究についても進展が見られ、研究会での発表を行った。また、琉大付属中理科の共同研究者として付属中教諭との共同研究に従事した。		
社会貢献	0.08	○ITER-BA(国際熱核融合実験計画を補完・支援する先進的核融合研究開発事業)の遂行を他大学(京都大学、島根大学、北海道大学など)の研究者と連携して行う。 ○要請があれば、物理学に関する講演・出前授業などを行う。			0.10	ITER-BAについては1つのタスクの研究代表者となり産学連携助成金を受け、将来の核融合炉中における水素同位体蓄積挙動についての議論・研究を進めた。また、3つのタスクには分担者として加わり、研究助言などの役割を果たした。また、科学作品展の審査委員や中学校理科教諭授業改善研修会における指導助言者等にも従事した。		
管理運営	0.08	○理科教育専修3年次の指導教員および、学生生活委員としての業務を円滑に行う。 ○機器分析支援センター運営委員会委員の業務を円滑に行う。			0.05	理科教育専修3年次の指導教員としての業務は円滑に行うことができた。学生生活委員としての業務も円滑に行った。理科教育専修・理科教育講座における諸業務も円滑に行えた。また、機器分析支援センター運営委員会委員としての仕事も行った。		
進路指導	0.01	○教育学部理科教育専修2年次の学生に対し、将来の進路に関する相談、助言などを行う。 ○教員採用試験に関する物理分野の受験指導を行う。			0.00	研究室に所属している3名の学部学生および2名の大学院生に対して、要望に応じた進路指導を行った。また、教育学部理科教育専修3年次の学生からは特に進路指導に対する相談は受けなかった。また、教員採用試験に関する物理分野の受験指導も行った。ただし、すべての業務内容を合わせても、それほど時間を要していないので、業務ウェイトは0.00にしてある。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		濱田 栄作	所 属	教育学部 生涯教育課程	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	担当する科目について、学生の到達度を把握しながら、教材の開発を実施する。		0.30	担当科目について、アクティブラーニングを意識した授業を実施した。また、附属中との共同研究として、確かな科学概念を身につけるための授業づくりに取り組んだ。	
研究	0.40	採択中の科学研究費補助金に関する研究を遂行するとともに、新しい研究課題を創出し、各種助成金の獲得を目指す。		0.40	科研費採択中の研究を計画通りに進める一方で、沖縄県の特徴を生かした教育研究にも着手し、成果を随時まとめ、今後学術誌に投稿する予定である。	
社会 貢献	0.05	教育実践総合センターのアドバイザースタッフ派遣事業や、各種団体からの要望に応える。		0.05	アドバイザースタッフ派遣事業からの要請はなかったが、沖縄県児童・生徒科学賞展の審査委員(物理分野)、九州地区理科教育研究大会沖縄大会事前研修会およびブレ大会での指導助言、県教育委員会免許法認定講習の講師を務めた。	
管理 運営	0.05	教育実習委員として、学生の指導および外部機関との連絡対応に取り組む。		0.10	教育実習委員として、自然環境科学教育コースの学生の実習指導に加え、介護等体験に係る外部機関(4件)との連絡対応に取り組んだ。	
進路 指導	0.20	新入生の年次指導教員として、学生生活および学習・進路等の相談および助言を実施する。		0.15	前期、後期の年次別懇談会、1・3年次合宿研修に加え、各学生との個人面談を実施し、学生生活や進路について助言した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		吉田 安規良	所 属		教育学部 学校教員養成課程	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	担当科目はほぼ全て「教員養成」と密接に関連しているため、教職志望の学生が、将来黒板を背にして教壇に立ったときに困らないような教育活動を行う。			0.20	管理運営の会議が多く、きめ細やかな指導をする時間的余裕がなかった。医学部保健学科向け授業等を含めて、自身が担当すべき授業は全て行った。		
研究	0.08	日本財団助成事業「海をいかした教育に関する実践的研究」の事務取扱として研究同人が円滑に研究を進められるように必要な配慮をする。それ以外は、管理運営業務が膨大で時間的余裕がないので、必要最低限の研究を継続するにとどめる。			0.05	時間的余裕が少なく、細かな部分まで至らない部分もあったが、特命一般職員のサポートがあつて概ね達成できた。		
社会貢献	0.08	教員免許状更新講習ならびに沖縄県教育委員会教育職員免許法認定講習の講師として地域の現職教師教育に貢献する。			0.05	左記事項は完遂した。		
管理運営	0.55	教育担当の学長補佐として、全学的見地から必要な業務を行う。			0.67	大学改革が求められており、本当に多忙だった。		
進路指導	0.05	教育実践学専修4年次指導教員として、村上呂里教授とともに学生指導にあたる。 教育実践学専修4年次の希望者を対象に就職対策を行う。			0.03	学部レベルに関しては、村上呂里教授に細かな学生指導をしていただきなど負担をかけることが多く、自身としてはあまり的確な配慮ができなかったと思う。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			